Kumamoto University

熊本大学概要 2022

创造场和挑戦场头

学長メッセージ

熊本大学は明治20年(1887年)に設立された第五高等中学校(五高)から数えて135年、1949年(昭和24年)に五高など6つの官立学校を統合した国立熊本大学の発足から数えて73年の歴史ある総合大学です。現在までに12万人以上の有為の人材を社会へ送り出し、卒業生は世界で、また各界で活躍しています。

熊本大学では本年4月に「熊本大学イニシアティブ2030」を策定・公表しました。地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学となるために、「常に情報を発信し続ける大学」、「常に外から見える大学」、「常に外からの声に耳を傾け、発展し続ける大学」を目指し、改革に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症拡大は社会に大きなダメージを与えましたが、その一方、世界中で遠隔授業が急速に発展しました。この利点を活かし、熊本大学では海外の大学とダブルデイグリーやジョイントディグリーなどの教育のグローバル化をさらに推進します。また、全学生が数理・データサイエンス並びに国際対話のリテラシーを身につける教育により、文系・理系を問わずデジタルトランスフォーメーション(DX)時代に対応した新しい価値を創造できるグローバル人材を育成します。

研究面では、先端研究に磨きをかけるとともに、熊本大学で継承・発展してきた研究支援体制の強化や潜在的な可能性がある研究分野の掘り起こしと育成に取り組んでいます。

また、キャンパス内には、五高記念館など、4つの重要文化財の建造物を所有しております。2016年の熊本地震で被害を受けたこれらの施設は2022年2月で復旧が完了し、一般公開を再開しました。今後はこれらをキャンパスミュージアムとしてさらに整備します。

熊本大学は国内外の大学、研究機関、様々なステークホルダーと協働して教育・研究やオープンイノベーションを推進し、大学を大きく発展させていきます。

熊本大学長

小川久雄



学年開始4月1日前学期4月1日~9月27日春季休業4月1日~4月3日入学式4月4日

夏季休業 8月11日~9月27日

後 学 期 9月28日~3月31日 開学記念日 11月1日 冬季休業 12月24日~1月9日 卒 業 式 3月25日 学年終了 3月31日





校章

熊本大学の校章は、熊本市の市木であり、 キャンパス内にも多く植えられている 「銀杏」がモチーフとなっています。





象徴しています。

歌本大子 funamoto University コミュニケーションマーク

学内外のコミュニケーションの活発化を目的としたコミュニケーションマークは、くまもとの「く」を象っていると同時に、Kumamotoの「K」を変化させ、さらに前進していく矢印をイメージし、校旗を彩る紫紺とうこんで彩色したデザインです。 伝統を尊重しながら、躍進を続ける熊本大学を 理念

本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、総合大学として、知の創造、継承、発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献することを目的とする。

目的

教 育

個性ある創造的人材を育成するために、学部から大学院まで一貫した 理念のもとに総合的な教育を行う。

学部では、幅広く深い教養、国際的対話力、情報化への対応能力及び主体的な課題探求能力を備えた人材を育成する。

大学院では、学部教育を基盤に、人間と自然への深い洞察に基づく総合 的判断力と国際的に通用する専門知識・技能とを身につけた高度専門 職業人を育成する。

また、社会に開かれた大学として、生涯を通じた学習の場を積極的に 提供する。

研究

高度な学術研究の中核としての機能を高め、最先端の創造的な学術研究を積極的に推進するとともに、人類の文化遺産の豊かな継承・発展に努める。

また、総合大学の特徴を活かして、人間、社会、自然の諸科学を総合的に深化させ、学際的な研究を推進することにより、人間と環境の共生及び社会の持続可能な発展に寄与する。

地域貢献·国際貢献

地方中核都市に位置する国立大学として地域との連携を強め、地域に おける研究中枢的機能及び指導的人材の養成機能を果たす。世界に開 かれた情報拠点として、世界に向けた学術文化の発信に努めることによ り、地域の産業の振興と文化の向上に寄与する。

また、知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、 双方向的な国際交流の担い手の育成を目指す。

CONTENTS

特色ある取り組み	
教育	1
研究	3
社会貢献	5
国際	7
学部	9
大学院	11
専攻科・別科、研究所、機構	13
学内共同教育研究施設	14
保健センター、障がい学生支援室、文書館、技術部・・・・	16
病院、ヒトレトロウイルス学共同研究センター	17
附属図書館、学外オフィス	18
熊本大学ミュージアム・歴史的建造物	20
資料編	22

教 苔 (全学共通教育)

熊本大学では、全ての教員がその専門分野を通じ、あらゆる領域の専門家として教養教育に携わっており、大学教育統括管理運 営機構を中心に様々な取り組みを行うことにより、総合大学としてふさわしい幅広い学びを提供しています。

大学教育統括管理運営機構

附属数理科学 総合教育センター 附属多言語文化 総合教育センター

附属教職総合センター

教養教育

科目群

外国語科目

情報科目

肥後熊本学

理系基礎科目

体育・スポーツ科学科目

リベラルアーツ科目

現代教養科目

Multidisciplinary

キャリア科目

開放科目

地域を学び、考え、理解を深める

肥後熊本学

「歴史」・「文化」・「社会」・「自然」・「環 境 |· 「生命 | の6つの領域において、熊本 の身近な事物を見つめ直すことによって、 より本質的で普遍的な課題への理解を深 め、「知」に変えていくことを目的として 「肥後熊本学」を開講しています。

また、eラーニング教材を作成し、講義 で選択できなかった領域についても学修 の機会を提供しています。



領域	2022年度 授業テーマ例			
歴史	歴史 古墳からみた肥後熊本と近畿中央政権			
文化	熊本の民族文化と伝説			
社会	地域課題を知り地域を創る仕組みを考える			

自然 熊本の自然と環境 水俣病とその原因究明に尽くした熊大教育の奇跡

生命 水俣病を知っていますか

数理・データサイエンス教育

リベラルアーツ科目 理系基礎科目

文系・理系を問わず、全学部学生を対象 に数理・データサイエンス教育を実施して います。

本学の数理・データサイエンス教育は、 附属数理科学総合教育センターが中心と なって、単にスキルを身につけるだけでな く、その基礎となる数学・数理科学に対す る深い理解と応用力を持つ人材を育成す るため、数理科学的思考力の強化にも注 カしています。



数理・データサイエンス教育の実施

共通テキスト の作成、 教育法の改善



多言語文化教育

外国語科目

Multidisciplinary Studies

国際社会で通用する人材を育成するた め、附属多言語文化総合教育センターが 中心となって、外国語科目やMultidisciplinary Studies (学際的なアプローチで 幅広いテーマについて英語で授業を行う 科目群)を提供しています。

これらの科目を通じて、言語の習得に加 え、多様な価値観に触れ、国内外の文化、 社会、歴史、環境問題、科学技術の発展等 の理解を深めることで、グローバルな視点 から総合的に考える力を身につけます。



Multidisciplinary Studiesの実施



多様な言語やそれを通じて文化を学べる 環境を整備

リベラルアーツ科目

現代教養科目

「リベラルアーツ科目」及び「現代教養科目」の複数の科目を体系 的なつながりをもったパッケージとして構成し、文系学部の学生は自然・生命学系、理系学部の学生は人文・社会学系の中から、興味関心 のあるパッケージを履修(文理クロス履修)します。これにより、テ マを多角的に捉え、深く考える力を身につけます。



キャリア=自分らしく生きること

キャリア科目

入学後の早い段階から自分自身のキャリア形成に興味関心をもち、 大学生活における目標を見つけることを目的として、本学のキャリア 教育におけるキャリアを「自分らしく生きること」と定義の上、キャリ ア科目を「自分らしく生きる」、「社会の中で生きる」という枠組みで 実施しています。



■「自分らしく生きる | 科目群

今の学生生活をどう生きるかという 視点に立ったキャリア科目で構成

■「社会の中で生きる」科目群

地域との関わり方やダイバーシティ などの視点を含む科目で構成

大学院教養教育

大学院修了者には「知のプロフェッショナル」として、今後の社会を先導し、指導的な立場に立つ人材となることが期待されています。知のプロフェッショナルが新たな価値を創造し、社会の様々な問題を解決していくには、専門力だけでなく、俯瞰力・汎用力が求められます。さらに、より高度な内容を多角的かつ深く学び、様々な分野の知識 (形式知)を自らの知に変える力 (知力)も重要です。そこで令和元年度から「新たなカタチの大学院教養科目」として、様々な科目を開講しています。これらの科目を組み込んだ大学院博士人材教育プログラムとして、令和3年度から「健康生命科学S-HIGOプロフェッショナル養成フェローシップ」と「Well-Being社会を先導する異分野横断型博士人材養成プログラム」も実施しています。

新たなカタチの大学院教養科目

社会で即戦力として、諸課題を解決できる リーダーに必要な俯瞰力・汎用力を身につける

令和元年度から「博士課程教育リーディングプログラム(HIGOプログラム)」のユニークな5科目を全学に向けて開講しています。

1 リーダーシップトレーニング講座(3日間)

2 企業セミナー(年8回)

3 行政セミナー(年8回)

4 企業インターンシップ(5日間)

5 行政インターンシップ(5日間)



リーダーシップ トレーニング講座 のグループワーク

様々な分野の形式知を自らの知に変える 「知力」と学際性を身につける

令和2年度から、専門的高度教養教育として、生命科学・ 自然科学・人文科学・社会科学の分野(研究者)の知を結 集した科目を開講しています。

 料目名: 研究の最前線と知の統合
 2022年度 ウィズコロナ時代の Well-Being

 第1回 概論
 スクールライフのWell-Being

 第3回 子どもの心のWell-Being

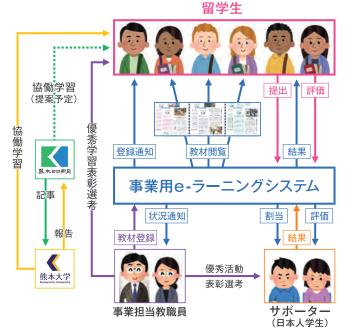
第4回免疫力でWell-Being第5回医工連携でWell-Being

第6回 感覚のWell-Being 第7回 人工知能とWell-Being

第8回 総合討論

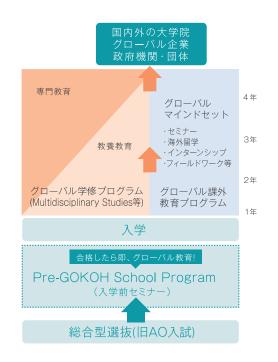
外国人学生の国内就職に向けた日本語能力の獲得支援

外国人学生、特に英語で学位取得を目指す大学院生に、日本で就職する際に必要な日本語能力を効率的に獲得できるよう、熊本日日新聞社のご協力を賜り、小中学生向け新聞記事を利用したe-ラーニングシステムを提供します。また、留学生就職促進プログラム(CDP+K)で開発した「留学生個人電子カルテシステム」の活用や、サポーター日本人学生の協働により、きめ細かな支援を行います。



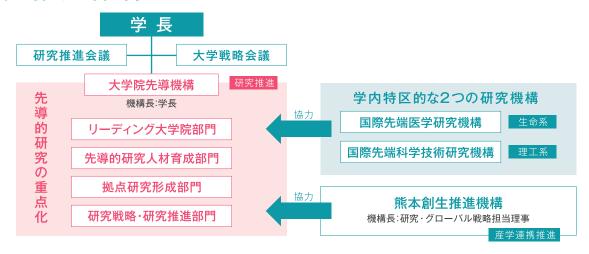
グローバルリーダーコース(文・法・理・工学部)

多様な価値観を受け入れられる豊かな教養と国際感覚、確かな専門性と柔軟性のある創造的な思考力を身につけ、国内外における地域の課題をグローバルな視点で考え、果敢に行動できる人=グローバルリーダーを育てるコースを文・法・理・工学部に設置し、グローバルリーダーの育成に取り組んでいます。



研 究

研究推進体制



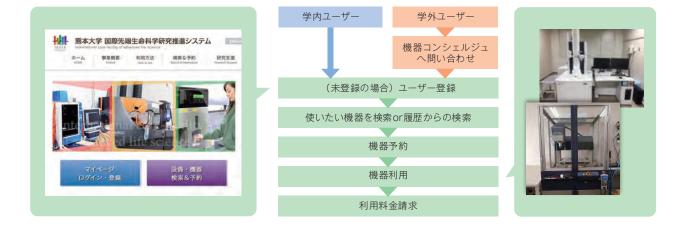
研究大学強化促進事業の概要

熊本大学は平成25年度文部科学省「研究大学強化促進事業」支援対象機関に採択されました。研究マネジメント人材(URA)の確保や集中的な研究環境改革等を通じて研究力の強化を図り、世界的にも先端的な研究を推進し、特色ある基盤的研究を強化していきます。



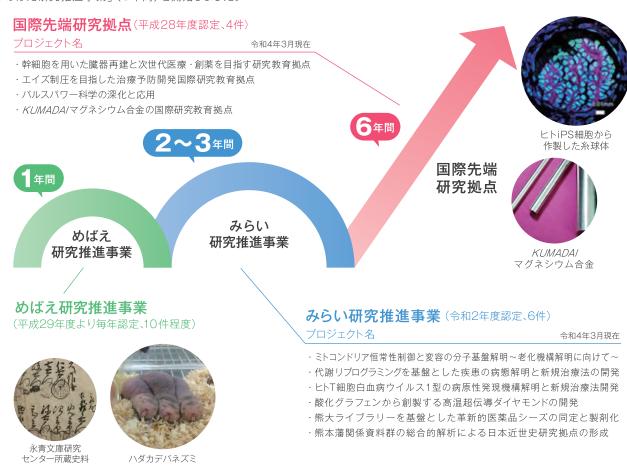
学内設備・機器の共用化

文部科学省の先端研究基盤共用促進事業(新たな共用システム導入支援プログラム)採択を受け、学内の設備・機器の共用化、オンライン予約システムの構築、機器管理に関する専門的人材育成、産学連携・共同研究に向けた高い技術支援体制の整備等を実施しています。



質の高い研究の展開を推進するための取り組み

熊本大学では、"国際的な研究拠点を志向する地域起点型大学"として、特色ある質の高い研究の展開を推進しています。 これまでに4つの重点領域を「国際先端研究拠点」として認定し、重点的な支援(6年間)を行っているほか、平成29年度からは、次世代の本学の強みとなる研究分野を支援する「みらい研究推進事業」(2~3年間)と、大胆で挑戦性の高い研究を支援する「めばえ研究推進事業」(1年間)を開始しました。



国際共著論文の発出

よりよい研究を生み出す取り組みの結果、熊本大学からは日々多くの国際共著論文が発表されています。

国際共著論文の推移



*Clarivate Analytics社 InCites Dataset, 文献タイプ:Article,Review.

国際共著論文数 **492**本

国際共著機関数 920機関

国際共著相手国 **76**ヵ国

熊本大学との

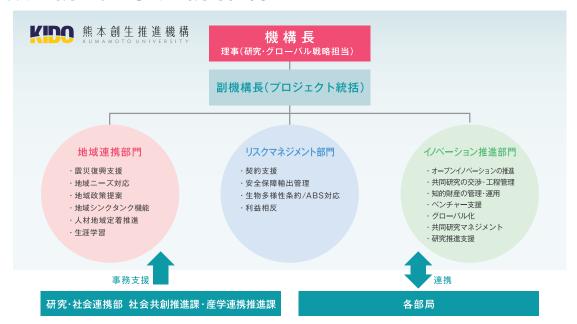
国際共著論文数が多い機関(国外)(Academic のみ)

No.	機関名	共著論文数	围
1	Harvard University	86	USA
2	National University of Singapore	65	SINGAPORE
3	University of Sydney	55	AUSTRALIA
4	University of Oxford	54	ENGLAND
5	Universite de Paris	53	FRANCE
6	University of Southern California	48	USA
6	Asia University Taiwan	48	TAIWAN
8	University College London	42	ENGLAND
	Universite Paris Saclay	41	FRANCE
10	Columbia University	36	USA

*2017-2022

社 会 貢 献 (地域連携・産学連携)

地域連携・産学連携体制



特色ある取り組み(地域連携)

地域課題や企業課題と地域資源を結びつけ、ローカルイノベーションが沸き起こる共創の場づくりとして、地場企業の若手経営者や後継者らを対象とした「地域再生人材育成塾」を開講しています。現在、熊本県内4つの地域及び和歌山県の田辺市にて開講しており、今後さらに他地域へも展開していく予定です。自治体との共催事業である新たなリカレント教育として、地域企業の事業承継・第二創業を産官学金が連携支援し、地域の持続的な発展を目指しています。



熊本県阿蘇地域 あそ未来創造塾の修了生レポート

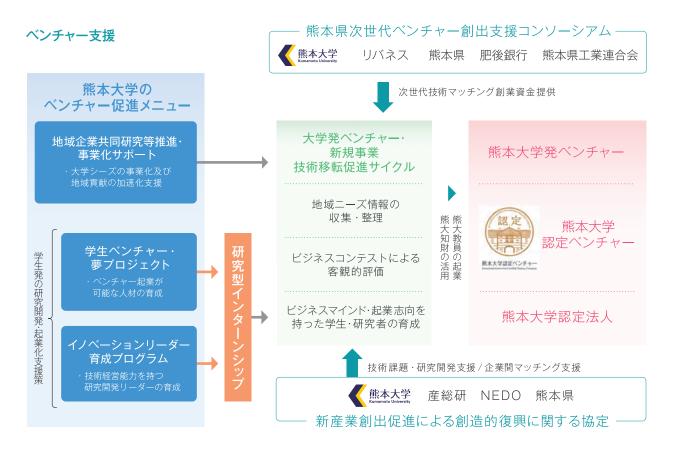


熊本県天草市の開講式の様子(令和3年8月)



地方創生人材育成の連携に関する協定 及び覚書調印式の様子(令和3年8月)

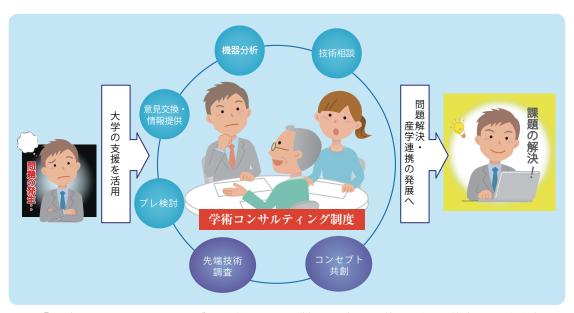
特色ある取り組み(産学連携)



学術コンサルティング制度

「学術コンサルティング制度」は、企業等の幅広い課題・要望に対し、熊本大学の教職員が助言や指導、新事業の創出支援、技術調査、課題解決を行う新たな産学連携制度です。

企業等の事業化や産学連携の検討における様々なステージで生じる課題に対応できるよう多彩なメニューを準備しております。



●「アジアで最もイノベーティブな大学ランキング」でアジア29位、国内10位(2019年版) (ロイターHP「Asia Pacific's Most Innovative Universities - 2019」に基づく)

国際

スーパーグローバル大学創成支援事業の概要

熊本大学は、平成26年度文部科学省スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」に採択されました。本学が事業の構想名に掲げる「地域と世界をつなぐグローバル大学Kumamoto」は、真のグローバル大学への変貌を目指し、以下の4つの大目標を掲げ、地域のグローバル化を牽引するとともに世界レベルの研究拠点大学としての地位を確立することを目的としています。

- 1.国際通用性の高い学部教育システムの導入
- 2.世界から留学生が集うグローバル環境の提供
- 3.世界最先端の研究を支える大学院教育のグローバル化と先鋭化
- 4.世界に開かれた地域づくりを牽引するグローバルキャンパスの提供



教育力と研究力で我が国を牽引する 真のグローバル大学

大学改革を牽引する先導的モデルとして波及

世界最先端研究を支えるグローバル教育環境の整備

- 世界の人材が集う国際環境の整備
- 海外拠点・ジョイントラボ等の整備・拡充
- 欧米、ASEAN、アフリカ等との戦略的連携

グローバルに貢献 世界に開かれた地域づくりを

- 牽引するグローバルキャンパスの提供
- 中高生が集い学ぶ
- 「熊大グローバルYouthキャンパス」の提供
- 地域の豊かな多文化共生に貢献

FleCSがモビリティ

大学院教育のグローバル化の推進 (受入・派遣等)を先導

- ダブルディグリープログラム等の 海外連携教育コースの拡充
 - 国際共同研究機構による 大学院教育の支援

既存の学部のグローバル化を推進

- ■「グローバルリーダーコース」の設置
- 教養教育のグローバル化
- 海外AO入試の実施

柔軟な履修制度

熊大FleCS

柔軟な単位認定

柔軟な入学期

Flexible Curriculum System

柔軟な修学期間

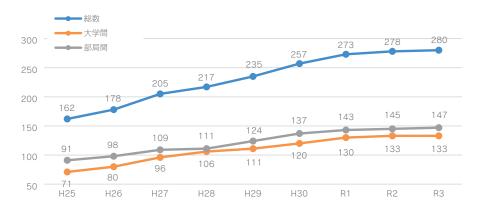
大学教育統括管理運営機構附属 多言語文化総合教育センター 熊本大学のグローバル教育を 改革的に推進するパワーエンジン

多言語によるグローバル科目の実施

世界に日本を伝え広める人材育成

地域にグローバルな「学び」の場を提供

国際交流協定数



特色ある取り組み

COIL(Collaborative Online International Learning) による国際交流学習、オンラインプログラム

Multidisciplinary Studies科目(英語による教養教育)の一環として、本学協定校であるインドネシアのスラバヤ工科大学(ITS)とCOILによる協働学習を実施しました。本プログラムは、タイ、フィリピン、マレーシア、スペイン、オーストラリアの本学協定校の教授陣も含めたチームティーチングで実施し、本学とITSの学生がオンラインでディスカッションや交流活動を行いました。

また、オーストラリア・シドニー工科大学、マレーシア・プトラ大学の学生と本学グローバルリーダーコースの学生との間でそれぞれオンラインによる交流プログラムを実施し、グループワークやプレゼンテーション等を行いました。

これらの活動を通し、本学学生が日本にいながらグローバルな学びを体験 し、様々な課題に対する複眼的な思考力やコミュニケーション力を養うこと ができました。

多言語文化総合教育センター主催 国際シンポジウム

令和3年12月に、多言語文化総合教育センター主催で「現代のグローバル社会の課題に関する学際的国際シンポジウム2021~持続可能なポストパンデミックの世界~」を対面・オンラインのハイブリッド形式で開催し、国内外から55名が参加しました。本学教員及び国内外のゲスト講師による講演やパネルディスカッション、グローバルリーダーコースの学生によるポスターセッション等を通じ、地域社会、文化、政治、Society5.0、教育等、様々な観点からパンデミック後の世界について課題を探り、SDGS達成への道筋について思索する場となりました。

熊大グローバルYouthキャンパス

高校生に対する英語による授業や留学生との交流の機会提供として、熊本県立高森高校との連携による「南郷塾寺子屋」、宮崎県立高千穂高校との連携による「熊大高千穂塾」を開講しました。また、「高校生のためのグローバルリーダー育成教育プログラム (肥後時修館)」を実施し、将来のグローバルリーダーを目指す県内の高校生64名に向けてオンデマンド及びオンラインによる特別授業やスクーリングを実施しました。さらに、熊本高等専門学校及び有明工業高等専門学校の学生173名に対し英語による講義を実施し、加えて、オープンキャンパスの一環として例年実施している「サマーフェスタ」をオンラインで実施、多言語文化総合教育センターのバーチャルツアーの配信や高校生とグローバルリーダーコースの学生との対談をオンラインで実施しました。

コロナ禍においてもオンライン等を活用し、高校生・高専生に対する早期 グローバル教育を推進することができました。

韓国科学技術院(KAIST)と熊本大学の合同セミナーシリーズ

国際先端医学研究機構(IRCMS)と国際先端科学技術研究機構(IROAST)は本学における生命科学系、自然科学系の先駆的な国際共同研究や融合研究を推進しています。医理工連携等の異分野融合研究を強化し、新たな研究分野を発掘するため、令和3年7月から11月にかけ、本学の協定校である韓国科学技術院(KAIST)とオンラインセミナーシリーズ(Joint Invited Speaker Seminar Series)を開催しました。全14回の本セミナーでは、KAIST、熊本大学、その他の機関の研究者による最先端の研究発表が行われ、延べ380名以上の参加者が情報交換を行い、議論を交わしました。国際共同研究の更なる発展が期待されます。





オンラインによる講義



国際シンポジウム



熊大高千穂塾



センターポスターより

学 部

文学部

│ 総合人間学科 │ 歴史学科 │ 文学科 │ コミュニケーション情報学科 │

文学部は、第五高等学校を前身とし、昭和24年5月に熊本大学法文学部文学科として設置され、昭和54年4月に文学部として独立しました。目指しているのは、幅広く豊かな教養と人文・社会科学に関する確かな専門的知識を有し、創造的知性をもって自ら課題を発見・解決する実践的な能力および21世紀に生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、社会に貢献できる人材の育成です。教育では、特定の専門知識や技術を身につけるだけでなく、今を生きる人として求められる「総合力」を涵養することを重視し、①系統的かつ柔軟で発展性のある指導、②個々の学生の関心に応じる少人数教育、③現代社会に対応した実践的教育、④総合的なメディア・リテラシー教育に力を入れています。平成31年4月に方言や伝統芸能、祭りなどの伝統的な文化資源に加え、漫画やアニメ、舞台、音楽などの同時代の文化資源を発掘し、付加価値をつ



けて発信できる人材を育成する「現代文化資源学コース」、令和3年4月にグローバル人材に求められる異文化理解や多文化 共生能力を目指す「多言語文化学コース」を加え、総合人間学科、歴史学科、文学科、コミュニケーション情報学科の4学科10 教育コース体制となりました。各コースでは、3年次から22の教育研究領域に分かれ、それぞれの専門的知識を深めるととも に、今を生きる人として求められる総合力・実践力を磨き、社会の多方面で活躍できる人材の育成に努めています。

教育学部

| 学校教育教員養成課程 初等·中等教育コース/特別支援教育コース / 養護教育コース |

教育学部は、明治7年5月開校の(県立)熊本師範学校等を前身としており、昭和24年5月に熊本大学教育学部として設置されました。

現在、教育学部には、義務教育関連の教員を養成する学校教育教員養成課程に初等・中等教育コース、特別支援教育コース、養護教育コースの3コースが設置されています。

また、「附属教育実践総合センター」では、教育実習関係の指導のほか、教育相談等、教育現場の諸問題に対する対応と実践的研究を行っています。

さらに、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校は、学部との教育・研究面での強い連携と協働により、2~4年次の教育実習指定校として、また九州地域の教育実践研究の先導的なモデル校としてその役割を果たしています。

教育学部の目的は、広い視野と深い教養を持った豊かな人間性を基盤とした教

員及び教育関係職員の養成です。教育に関わる現場において必要とされる基礎的・専門的な知識・技術を修得し、併せて主体的な課題探求能力をそなえた人材を育成することを目指しています。



法学部

| 法学科 法学・公共政策学コース/アドバンスト・リーダー・コース |

法学部は、第五高等学校を前身とし、昭和24年5月に熊本大学法文学部法学科として設置され、昭和54年4月に法学部として独立しました。現在は、法学科の下に、法学、公共政策学、紛争解決学についての基礎的能力を修得する「法学・公共政策学コース」と、法学特修、地域公共人材、グローバルリーダーの3つのクラスに分かれて進路志向型の学習を行う「アドバンスト・リーダー・コース」の2つのコースを設けています。

熊本大学法学部の教育目的は、法的知識を基礎として、法的あるいは政策的に「考える力」「表現する力」「議論する力」を身につけ、現代社会に生起する具体的な問題を解決し得る基礎的能力を育成することにあります。また、情報化・国際化・高齢化などが進展する21世紀において、地方中核大学の法学部として地域社会・国際社会に貢献できる個性ある学部作りを目指し、4年間を通して一貫した少人数教育のもと、学生の主体的かつ積極的な学習を大切にするカリキュラムを実施しています。



理学部

| 理学科 数学コース/物理学コース/化学コース/地球環境科学コース/生物学コース |

明治20年5月に設立された旧制第五高等学校の「理科 | を母体とする理学部は、 現在、当時と同じく「理学科」1学科で広く科学を学べる教育体制を提供しています。 1年次に数学・物理学・化学・地学・生物学すべての基礎を学んだ上で、2年次にはそ れを基盤としたより高度な内容の講義を履修し、数学・物理学・化学・地球環境科学・ 生物学の5つのコースから自分の志望するコースを選んで3年次以降の専門課程に 進みます。また、チューター制を導入し、一人一人の学生に対してチューター教員が履 修指導などをする教育サービスも提供しています。入学後の2年間で広く科学を学べ ることと自ら適性を見極めて専門課程を選択できることは、理学部の大きな特徴であ り、広く社会で活躍する人材を多く輩出し、社会からも高く評価されています。



理学部は基礎研究を行う一方、地域や社会のニーズに応じた研究にも積極的に取り

組んでいます。卒業後は、半数以上が大学院博士前期課程に進学し、残り約半数の学生が教員・企業・官公庁といった進路に進んでいます。

医学部

| 医学科 | 保健学科 | 看護学専攻/放射線技術科学専攻/検査技術科学専攻 |

医学部は、医学士教育課程である医学科と、保健学士教育課程である保健学科 で構成されています。前者の卒業生は医師や研究者に、後者は看護師、保健師、助 産師、診療放射線技師及び臨床検査技師や研究者になります。

医学科は、明治29年2月の私立熊本医学校設立以来、1万人を超す卒業生を輩 出しています。臨床医学教育研究センターを中心に、医学教育の充実を図りなが ら、使命である「豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域にお ける社会的な使命を追求、達成しうる医師・医学者を育てる」に向けた教育を実施 しています。



保健学科は、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の3専攻で 構成されています。生命や人間の尊厳に基づく豊かな教養と高度な専門知識・技能を有し、チーム医療のスタッフとして地域及び国 際社会に貢献でき、保健学の発展を担える資質を備えた医療技術者、研究者、教育者の育成に向けた教育を実施しています。

薬学部

薬学部では、"薬学は医薬を通して人類の健康に貢献する総合科学である"との 理念のもと、医薬品の創製・生産・管理、環境・保健衛生および薬剤師の職能等に関 わる基礎知識を修得させ、生命科学を基盤とする高度の薬学的思考力と倫理観を 備えた創造性豊かな人材を育成することを目的としています。この理念と目的を達 成するため、薬剤師養成6年制課程として「薬学科」を、研究者養成4年制課程とし て「創薬・生命薬科学科」を設置し、基礎科学的な講義や、高度で先進的な専門講義 と実習(基礎実習、臨床実習)を行っています。卒業後の進路は、病院・薬局薬剤師、 製薬・化学企業、官公庁など多彩ですが、卒業生の多くは大学院に進学し、国際競争 力のある薬学研究者や、臨床での指導的薬剤師を目指しています。

| 薬学科 | 創薬·生命薬科学科 |



工学部

│ 土木建築学科 │ 機械数理工学科 │ 情報電気工学科 │ 材料·応用化学科 │

工学部は明治30年4月に第五高等学校に設立されて以来、4万人近くの卒業生 を社会に送り出し、わが国の科学技術や経済の発展に大きく寄与してきました。今 や活躍の場は世界へと広がっており、交流協定に基づく海外の大学との連携や海 外でのフォーラム開催などを通し、国際的な連携や拠点づくりを展開しています。 教育においては、工学の専門知識と学際的知識を総合化した判断力を有するとと もに、問題解決能力や新規分野を開拓発展させる能力を備え、主体的に考え、自ら 行動し、人類の福祉と文化の進展、自然との共生に寄与できる技術者を養成するこ とを目的としています。特に、グローバル社会で活躍するとともに、社会的要請に応 じた技術革新を行うことのできる人材の育成を目指し、「ものづくり」教育に力を入 れています。企業からは多くの求人がある状況ですが、多くの学生はより高度の専 門知識やスキルを修得するため、大学院に進学しています。



学 院

人文社会科学研究部

大学院の重点化に伴って、生命科学研究部及び先端科学研究部に続き、平成29年4月に文学部、法学部、大学院 社会文化科学研究科、大学院法曹養成研究科が改組され、教員組織である「大学院人文社会科学研究部」が発足しま した。



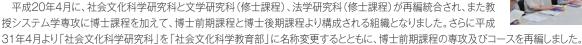
人文社会科学研究部が新たに設置されたことで、生命科学系、自然科学系及び人文社会科学系分野を軸とした教員組織が整備され、若年人口の急激 な減少や社会のグローバル化を見据え、また、大学教育の質の確保の観点から教育プログラムを機動的かつ柔軟に見直すことが可能となりました。

人文社会科学研究部内においては、活力ある地域社会の発展に寄与するとともに、国際的な文化・学術の発信力を高める人文社会科学の研究拠点の 創成を目指し、人文系及び社会科学系の研究資源の連携を強化することで、国際レベルの研究を推進していきます。特に人文系における心理学、歴史学、 社会学などの分野で、海外の大学との連携を強化することで文化の発信力を高め、従来の受容型から発信型へと文化研究を転換させていきます。

また、人文系、法学系、政策系の研究資源を集約・融合して紛争解決学の分野の充実を図り、地域社会との連携や海外の大学との連携を強化し、国際水 準の研究の基盤を作るとともに、社会からの要請に応える応用的かつ実践的な研究の発展を目指しています。

さらに令和2年4月に、研究部附属国際人文社会科学研究センターが設置されました。本センターは、新資料学・歴史理論領域と学際的研究資源アーカ イブ領域の二つの重点研究領域を設け、研究成果の国際的発信及び地域と社会への還元を重点的に推進していきます。

社会文化科学教育部





再編後の4専攻(法政・紛争解決学、現代社会人間学、文化学、教授システム学)及び従来のコースと改編された新たなコース(法政・紛争解決学研究、 法·公共政策実践、交渉紛争解決実践)の設置により、多様化・複雑化する社会・文化・教育方法及び多種多様なレベルでの相互関係とその問題解決等に ついての教育・研究に対応する体制を整えました。令和3年4月には、法政・紛争解決学専攻の上位互換として、ローカルまたはグローバルな紛争に対して 対話的解決を実践できる国際的な人材の養成を目的に、熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻(ジョイント・ディグリー・ プログラム)を開設しました。

博士後期課程では高度専門職業人と研究者の養成を目指し、人間文化の諸側面の教育・研究及び現代にふさわしい文化政策形成を目指す「文化学専 攻」と、新しい社会システムの構築・政策研究及びその理論的基礎付けを目指す「人間・社会科学専攻」、また「教授システム学専攻」の3つの専攻が置か れ、博士前期課程からの進学者だけでなく、社会人、留学生にも門戸を開いています。

先端科学研究部

大学院の重点化の流れの中で、生命科学研究部に続き、平成28年4月に大学院自然科学研究科が改組され、教員 組織である「先端科学研究部」が発足しました。さらに平成30年4月の工学部及び自然科学研究科の改組に伴い、「基 礎科学」「物質材料生命工学」「産業基盤」「情報·エネルギー」「社会基盤環境 | の5部門31分野からなる研究組織に



再編しました。研究部全体として、地球環境共生と活力ある社会の持続的発展に貢献する自然系先端科学と高度な応用技術を備えた学術研究拠点の創 成を目指しています。独創的かつ先導的な学術研究と社会的要請に応える応用研究を推進し、科学技術の総合的な深化と新たな科学技術の創成、並び に大学院の個性化を達成することを目的に、理学系及び工学系の連携・協力により、活動を進めてまいります。令和3年4月には、研究部附属生物環 境農学国際研究センターを設置し、熊本地域に関連する農業問題を中心に基礎から応用までの研究を推進しています。さらに令和 4年4月には、半導体研究教育センターを設置し、産学官共同研究や国内外の研究機関・企業との連携強化に取り組むとともに、半 導体分野の高度人材育成を目指しています。

自然科学教育部 博士前期課程 博士後期課程

自然科学教育部は、高度な専門性に加え、他領域を理解する資質をもった人材を育成するため、平成30 年4月に自然科学研究科を改組して設置された大学院です。博士前期課程は学部から続く6年一貫的教育 を実現する5専攻、博士後期課程は理学専攻と工学専攻の2専攻からなります。



各専攻における高度かつ確実な専門教育に加え、俯瞰的な立場から様々な問題に対処しうる資質を涵養 するために、総合科学技術共同教育センター(GJEC)を配置し、研究開発リーダーや起業家を育成するための「イノベーションリーダー育 成プログラム」、国際的に活躍する研究者やイノベーションをリードする博士企業人を養成する「Aim-Highプログラム」、さらに、英語のみ で学位取得が可能な国際共同教育プログラム(IJEP)を提供しています。また、博士後期課程学生の支援のための「科学技術イノベーショ

ン創出に向けた大学フェローシップ創設事業」などの事業に採択され、博士人材の育成に力をいれています。 このように本教育部は、確実な専門性と、国際性豊かで他分野と協働して問題に立ち向かう能力をもった人材を育成します。

▶ 生命科学研究部

生命科学研究部は、医学系・薬学系・保健学系の教員を一体化した教員組織です。3部門(総合医薬科学・先端生命医療科学・環 境社会医学)14分野57研究講座から構成されており、附属施設としてエコチル調査南九州・沖縄ユニットセンター、臨床医学教育 研究センター、健康長寿代謝制御研究センター、グローバル天然物科学研究センター、生体情報研究センター、ワクチン開発研究 センターを有する日本有数の教員組織です。総合医薬科学部門では、医学・薬学分野の基盤的な学問体系の深化を目指した研究、



先端生命医療科学部門では移植医療や分子創薬などの生命科学分野の先端的研究、環境社会医学部門では、"医学・薬学と社会" 並びに"疾病と環境"の 関わりを科学的に究明するとともに、生命倫理に関する先導的研究を推進しています。生命科学研究部は、生命と医療に関する研究を通じて人類の健康 と福祉に貢献すること、また世界で活躍できる次世代の優れた人材を育成することを目指しています。

医学教育部

医学教育部は、4年制の博士課程と2年制の修士課程から構成されます。修士課程では、最先端の医学・生命科学 領域に対応できる研究者、教育者、高度専門職業人の養成に努めています。平成29年度より社会人修士課程を開設 し、仕事をしながら大学院教育を受けることが可能となりました。博士課程では医学・生命科学分野において世界をリー ドする研究者・研究医の養成に努めています。基礎研究医を養成するための高校・大学・大学院で一貫教育を行う柴三 郎プログラム、グローバルに活躍する人材を育成するS-HIGOプロフェッショナルプログラム、高度な研究能力を備え



た人材の育成を図るWell-Being社会を先導する異分野横断型博士人材育成プログラムなど、多彩な人材の育成を実施しています。生命科学研究部、病 院、発生医学研究所、生命資源研究・支援センター、ヒトレトロウイルス学共同研究センター、国際先端医学研究機構(IRCMS)及び学外連携研究組織の約 90の研究分野に所属する教員が教育を担当しています。

保健学教育部

保健学教育部保健学専攻は、平成20年4月に看護学分野、医用放射線科学分野、検査技術科学分野の3分野を備 えた大学院修士課程として設置され、平成22年4月には新たに博士後期課程が設置され、修士課程は博士前期課程 となりました。



博士前期課程では、保健·医療·福祉領域における実践的指導者(高度専門職業人)及び研究者·教育者の養成を目 的として、一般学生並びに医療現場の社会人でも学びやすい教育プログラムを編成しています。募集人員は24名で、修了後は修士(保健学)または修士 (看護学)の学位が取得できます。

博士後期課程は、保健・医療・福祉分野における自立的・学際的・独創的な研究能力を兼備した研究者・教育者または高度医療専門職業人を養成します。 募集人員は6名で、博士(保健学)または博士(看護学)の学位が取得できます。

薬学教育部 博士後期課程、博士課程

大学院薬学教育部では、4年制学士課程を基礎とする創薬・生命薬科学専攻博士前期・後期課程と6年制学士課程 を基礎とする医療薬学専攻博士課程が設置されています。創薬・生命薬科学専攻では、創薬マインドに基づいて卓越 した研究能力を発揮し、先端的研究や医薬品開発の場で指導できる人材を養成します。医療薬学専攻では、薬学の幅 広い知識と思考力から高い研究志向を有する高度医療専門職・研究者・教育者を養成します。本教育部では、生命科学 研究部に加えて発生医学研究所、生命資源研究・支援センター、病院等の教員も教育にあたり、各教員の連携に基づ いた特色ある教育プログラムを用意しています。



▶ 教育学研究科 教職大学院の課程

教育学研究科は、修士課程の大学院研究科として昭和61年4月に設置され、平成21年4月から、学校教育実践専 攻と教科教育実践専攻の2専攻で構成される組織となりました(修士課程は令和2年度から学生募集を停止していま す)。その後、平成29年4月に、教職大学院の課程(教職実践開発専攻)を新設(入学定員15名)、令和2年4月から、 学校教育実践高度化コース、教科教育実践高度化コース、特別支援教育実践高度化コースの3コース制を導入し、入 学定員30名に改組・拡充しました。令和3年度には、教員養成評価機構による「認証」を得ています。



教職大学院では、学校教育の現場や教育委員会等との密接な連携に基づき、理論と実践の往還・融合を通じた高度な教員養成及び教員研修の体制を 整え、機能強化を図っています。学部卒の大学院生と現職派遣大学院生、研究者教員と実務家教員の協働により、高度な実践的指導力の育成を目指す点 に特色があります。修了者には教職修士(専門職)の学位が授与され、教員専修免許状も取得できます。

専攻科·別科

▶ 特別支援教育特別専攻科

特別支援教育特別専攻科は、現職教員や他分野の教員免許状を 取得している者を対象に、特別支援教育に関する専門性を有する教 員を養成することを目的としています。修了時に特別支援学校教諭 一種免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)を取得できます。

▶養護教諭特別別科

養護教諭特別別科は、看護師の免許を取得している者や取得見 込みの者を対象に、資質の優れた養護教諭を養成することを目的と しています。カリキュラムは教養教育科目・養護専門科目・教職専門 科目で構成され、修了時に養護教諭一種免許状が取得できます。

究 所

発生医学研究所

発生医学研究所は、発生学の視点から生命科学領域の国際水準の研究教育を推進することを組 織目標とし、発生医学の先端的研究、恒常的視野に立った人材育成、国内外の連携ネットワークを強 化した国際研究教育拠点として社会的な役割を果たすことを基本理念としています。

昭和14年10月に設置された体質医学研究所を原点に、遺伝医学研究施設、遺伝発生医学研究 施設、発生医学研究センター(平成12年)を経て、平成21年4月に発生医学研究所に改組されまし た。翌年には共同利用・共同研究拠点に認定され、高深度オミクス医学研究拠点ネットワーク形成事 業 (令和4年)にも参画しています。これらの活動を強化するために、臓器再建研究センター、高深 度オミクス研究センター、リエゾンラボ研究推進施設、グローカルサイエンス推進施設を設置してい ます。



▶ 産業ナノマテリアル研究所

産業ナノマテリアル研究所は国内で初めての二次元ナノマテリアルに特化した研究所とし て、学内の二次元ナノマテリアル研究者群と旧・パルスパワー科学研究所を融合して令和2年 4月に設置されました。二次元ナノマテリアルの応用研究は今後さらに発展すると期待されてお り、本研究所はナノシートや表面・粒界に関係した二次元ナノマテリアル研究をコアとして基礎 から応用、さらには実用化に向けた特殊合成プロセスの研究開発等を集中して行い、基礎研究



だけでなく産業イノベーションを起こす成果の創出に取り組んでいきます。研究所には、二次元ナノマテリアル研究を推進させるた めの総合研究設備や、パルスパワー科学研究所が保有していた爆発実験施設やバイオエレクトリクス研究施設といった特殊合成 プロセス施設を有しており、学内だけでなく、他大学・企業の研究者にこれらの施設・設備を提供していきます。

機 櫹

▶ 大 学 院 先 導 機 構

本学は、優れた研究環境を確保し学術研究を推進することによ り、国際社会及び地域社会に貢献しうる存在感ある総合大学の構築 を目指しています。そのために、大学院先導機構では、基礎科学と 応用科学の有機的連携のもと、生命科学、自然科学、人文社会科学 及び学際·複合·新領域の学問領域で最も力のある分野において先 導的研究を重点化し、国際競争力のある研究拠点の形成を推進して います。

能本創生推進機構

熊本創生推進機構は、熊本の地方創生に貢献することを理念に 掲げ、平成29年4月に設置しました。平成30年4月には、組織改組 を実施し、熊本における地域のニーズ及び課題に組織的・戦略的に 対応する一元的な窓口として、地(知)の拠点大学である本学の有す る知的・人的資源を最適に組み合わせて、組織的な産学官連携活動 及び地域連携活動の推進並びに地方創生教育プログラム及び多様 な教育機会の提供等により、熊本県内の産業振興、新産業の雇用の 創出、平成28年熊本地震からの復旧·復興支援、地域の課題解決及 び地域志向の人材育成を図ることを目指し活動しています。

桦 櫹

グローバル推進機構

本学は、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大 学創成支援事業」の採択を受け、我が国の大学改革を牽引 する先導的モデルとして、国内外でリーダーシップを発揮す るグローバル人材の育成や地域社会のグローバル化に向け た取り組みを積極的に推進しています。

グローバル推進機構は、本学のグローバル化に向けて全 学的に取り組む組織体として、平成27年3月に設置されまし た。機構長を副学長(研究・グローバル戦略担当)とし、真の グローバル大学への変貌を目指して、全学のグローバル化 推進活動を先導します。

▶大学教育統括管理運営機構

変容する入試制度とそのような中で入学してくる多様な学生に対応すべく、教 育の中枢を担うガバナンス力の高い組織として平成28年6月に設置されました。 「教育プログラム管理室」「評価分析室」「入試・就職戦略室」「グローバル教育 推進室」の4つの室を置き、教学に関する全学の会議体を所掌し、本機構を中心 とした組織的な実施体制を構築しています。本機構は、大学のビジョンと戦略か ら、膨大な教学データの分析を基に教養教育並びにキャリア支援体制を構築し、 学士課程及び大学院課程を通した教育の質の統括管理を行っています。

また、数理科学総合教育センター(平成30年度)多言語文化総合教育センター (令和2年度)及び教職総合センター(令和4年度)を附設し、本学の数理科学教 育及び教職課程の充実・質の向上とグローバル化の推進の拠点となっています。

先進軽金属材料国際研究機構

本学は富山大学と共同で、令和3年4月にマグネシウム・アルミニウム・チタンという三大軽金属を総合的に扱う先進軽金属材料国際研究機構を設置し ました。さらに、令和4年度から、「共同利用・共同研究拠点」として認定されており、本学の先進マグネシウム国際研究センター及び富山大学先進アルミ ニウム国際研究センターが有する資源を有効に活用し、SDGs、環境・エネルギー、防災・減災、医療機器等の重要課題解決に向け、軽金属材料の革新を 基軸にした世界に伍する日本初の軽金属国際研究教育拠点を構築します。

熊本県及び富山県の地域産業の特徴でもあるマグネシウム及びアルミニウム研究の強化、チタン研究の育成、マグネシウム・アルミニウム・チタンの融 合研究の促進及び軽金属モノづくり高度人材育成を図り、日本の科学技術と産業の発展に貢献します。

国際先端医学研究機構

国際先端医学研究機構は、本学の生命科学分野における国際的レベルの研究力強化及び国際共同研 究を推進させることを目的として平成27年4月に発足した組織です。本研究機構では生命科学系の部局 と連携し、国際的レベルの先端研究の実施、海外の卓越した研究機関との国際共同研究の推進、国際的 に活躍できる若手研究人材の発掘・育成を行い、「海外から見える研究組織 | となることを目指します。



これらを達成するために、本研究機構では博士課程の大学院生を含めた研究者の外国人比率が50%になることを目標として、欧米の一流 研究機関と同等の研究環境を整備することにより国際共同研究を円滑に行うことができる環境を作っています。また、本研究機構に所属する 教員・研究者が使用する国際先端医学研究拠点施設では、英語を公用語として使用するとともにオープンラボシステムを取り入れ、様々な分 野の研究者のコミュニケーションが取りやすい環境とすることで、複数研究分野の融合研究の創生を促進しています。

国際先端科学技術研究機構

国際先端科学技術研究機構は、本学の自然科学分野の国際的な研究力の向上を図ることを目的に、平 成28年4月に設置されました。本研究機構は、本学自然科学分野の研究組織と連携し、世界トップクラス の大学や研究機関との国際共同研究の推進や医理工連携など、分野をまたぐ研究プロジェクトの立ち上げ などにより、多くの優れた成果を挙げています。また、卓越した研究者を招へいし、国際シンポジウム等の開 催や国際共著論文としての成果公表などにより、国際的な認知度の向上を図っています。更に、テニュアト



ラック制度の活用や研究費支援、若手研究者の海外派遣支援、博士研究員や大学院生等の国際共同研究ネットワークへの参画などにより、国 際通用性の高い、世界の第一線で活躍できる研究者の育成に取り組んでいます。これらの取組みにより、世界トップレベルでオンリーワンの研 究を展開し、国内外から卓越した研究者が集まる頭脳循環拠点として、世界を安全で持続可能な未来へと導くことを目指しています。

学内共同教育研究施設

総合情報統括センター

全学の情報通信ネットワークを有機的に結合した情報基盤の中核組織です。ICTに関連した実践的研 究を行うと同時に、ICT戦略会議で決定された本学のICT関連施策を実施しています。また、情報教育・ 研究用の実習室を全学的に配備し、全学共通基礎科目である「情報基礎 | 等を実施担当しています。



五高記念館

五高記念館は第五高等学校の本館及び隣接する化学実験場を活用した大学博物館です。建物 は国の重要文化財指定を受けています。本館の内部は第五高等学校に関する様々な資料を展示 するとともに、講演会や講座などを実施しています。平成22年12月には、博物館相当施設の指定 を受け、本学における生涯学習の拠点施設の一つとなっています。



学内共同教育研究施設

永青文庫研究センター

永青文庫研究センターは、平成21年4月に設置された文学部附属永青文庫研究センターに おける研究・社会貢献事業の実績を踏まえて、事業展開の一層の拡充をはかるため、学内共同 教育研究施設として平成29年4月に改組・設置されました。

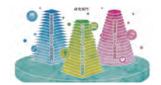
数ある大名家資料群のうちでも質量ともに最高レベルにある「熊本大学寄託永青文庫資料 |



をはじめとする熊本藩関係資料を対象とした研究は、本学ならではの特色ある研究・社会貢献のための重点領域です。本セン ターは、永青文庫資料等の総合的な研究を通じて、当該資料群に立脚した拠点的研究を組織し、かつ文化行政機関等との連携 によって研究成果を地域社会に還元するとともに、人文社会科学分野を中心とした研究及び文化振興の発展に寄与する人材の 育成を推進しています。

教授システム学研究センター

教授システム学研究センターは教授システム学の世界的研究拠点を目指す3つの研究部門と事 業部門であるeラーニング推進室から構成されています。本センターは実践的フィールドを学内外 に有し、高等教育や職業人教育を対象とした研究を展開していることが特徴です。



日本初の教授システム学研究拠点として「教授システム学、インストラクショナルデザインなら熊本大学」というイメージを発展的 に具現化し、国内外の研究拠点との連携を進め、企業・高等教育機関などの連携研究組織及び本学教授システム学専攻修了生など からなる連携研究員との共同研究を通じて、教授システム学を発展させ、社会に貢献します。

▶ くまもと水循環・減災研究教育センター

くまもと水循環・減災研究教育センターは、「水循環」と「減災」に関わる教員で構成されており、複合学問領 域からなる研究教育機能を備え、分野横断型研究の拡充と深化、社会貢献・社会実装を見据えた教育を展開す ることを目指しています。

熊本の特徴や地域課題を踏まえた地下水循環・沿岸環境・減災・復興まちづくりの研究を総合的かつ実践的 に推進していくために、本センターには、地下水循環部門、沿岸環境部門、減災型社会システム部門、地域デ ザイン部門の4部門が配置されています。これらの部門間の連携を図るとともに、国内外の研究機関、行政機



関、民間団体等とも連携し、熊本大学の情報収集·発信機能とシンクタンク機能を強化していきます。本センターは、得られた学術的 知見を活用して学生及び社会人の人材育成を行うとともに、さらにその成果を、アジア・モンスーン地域を含めた国内外に発信、展開 し、この活動を通じて熊本創生に貢献することを目標としています。

先進マグネシウム国際研究センター

平成23年12月に設置された先進マグネシウム国際研究センターには、世界トップクラスのマグネシウム 合金専用の最新鋭製造·加工設備や分析機器が整備されています。合金設計、合金評価、生体機能評価、 形質制御、構造体化の5つの研究分野からなるモノづくりの川上から川下まで一貫した研究体制によって、 KUMADA/マグネシウム合金をはじめとする先進マグネシウム合金について基礎と応用の両面から研究を 行っています。特に、基礎研究ではKUMADAIマグネシウム合金で発見された長周期積層構造やキンク強化 について、応用研究では航空機等の輸送機器や生体吸収性ステント等の医療機器について研究を進めていま す。さらに、大学院教育も含めた人材育成ならびに海外の一流研究機関との国際連携も進めており、国際的な 中核的研究センターとして、世界の研究をリードしています。



生命資源研究・支援センター

平成15年4月に設置された生命資源研究・支援センターは、熊本大学における遺伝子改変 動物などの実験動物の作製、開発、保存、供給、表現型解析、動物実験、遺伝子実験、アイソ トープ実験、マウスを中心としたバイオリソースに関するデータベースの構築・解析等の研究 を推進し、並びに関連する生命科学分野の研究支援、教育を担っています。センターに属する



教員は、実験動物分野、資源開発分野、疾患モデル分野、ゲノム機能分野、RI実験分野、分子血管制御分野、疾患エピゲノム制 御分野、生殖機能学分野及び生殖工学共同研究分野に所属して精力的に研究活動を行っており、並行して高度な研究支援、専 門的な教育活動を通して動物資源開発研究施設(CARD)、遺伝子実験施設(GTC)、アイソトープ総合施設(RIC)、黒髪RI 施設、大江RI施設及び熊本マウスクリニック(KMC)の管理運営を担当しています。

学内共同教育研究施設

環境安全センター

環境安全センターは、平成18年4月に、本学の安全管理と環境保全に係る教育研究組織として設 置されました。さらに大学における安全や環境の分野に関するリスクが複雑化してきたことを受け、平 成29年7月に、業務の専門化を図るために、安全部門と環境部門を設置しました。現在は教育・研究 及び支援・啓発を通じて、大学における安全管理、化学物質管理、環境管理、廃棄物管理を支援する



組織に発展しました。また、センター長(併任)、専任教員、兼務教員、事務職員(併任)による組織であり、技術部からの支援を受け、教職協働で センター業務を行っています。センター内には分析室や実験室があり、学内の作業環境測定や簡単な環境測定が行えます。

埋蔵文化財調査センター

本学が市内に擁する8つのキャンパスは、縄文時代から近代にかけての県下でも有数の遺跡内に 立地しています(黒髪町遺跡群、本庄遺跡、大江遺跡群など)。このため、キャンパス内の施設整備 (建物の建築・改修、ライフラインの整備等)で地下を掘削する際、遺跡の破壊が避けられない場合 には、遺跡の保存のため、発掘調査を行っています。



平成6年5月に埋蔵文化財調査室として業務を開始し、出土した埋蔵文化財(遺物・遺構)を保存・ 活用することにより、本学の教育に貢献する目的で、平成23年10月に学内共同教育研究施設として本センターに改組しました。年報・発掘調査 報告書を作成し、調査成果を考古学研究の基礎資料として情報公開するとともに、展示や各種行事を通じて、学内外への普及啓発に努めてい

ます。

保健センター

黒髪北キャンパスの赤門と附属図書館の間に位置する、学生と職員の福利厚生のための施設で す。医師3名、看護師3名、臨床心理士1名、公認心理師1名、キャンパスソーシャルワーカー1名が勤 務し、プライバシーには十分配慮した上で、学生と教職員の健康問題及び各種相談に無料で応じて います。また、薬学部と医学部のキャンパスでも、看護師及びキャンパスソーシャルワーカーによる健 康相談室を開設しています。



障がい学生支援室

障がい学生支援室は、障害者差別解消法の施行(平成28年4月)にあたり平成27年11月に設置さ れました。障がい学生の修学支援体制を強化し円滑な修学に寄与するため、障がいを有する学生に対 して修学に必要な配慮や支援が提供されるための調整を行っています。また、障がいの有無に関係な く、修学の基礎となる日常生活や社会生活に関する支援も行っています。スタッフは、医師2名(保健セ ンター兼任)、臨床心理士1名、キャンパスソーシャルワーカー1名、事務職員1名、合計5名です。



文書館

文書館は、本学固有の歴史に関する資料並びに熊本地域に関する学術研究資料の収集、整理、管 理、公開を目的として、平成28年4月に設置されました。主なテーマとして、本学の歴史、熊本地域、 水俣病、免田事件、ハンセン病に関する資料を扱っています。所蔵資料目録を文書館HPで公開して いますので、ぜひご覧ください。



技術部

【技術部は教育・研究を専門技術とチーム力でサポートします。】

技術部は、令和2年4月に全学の技術支援組織として設置されました。これまでの技術業務に加え て、組織的な人材配置及び人材育成機能の充実並びに職員相互の専門技術の連携による技術の高 度化を推進し、学際的研究や異分野融合の研究等にも効果的かつ効率的に技術支援を展開します。



病 院

病院は、診療科、薬剤部、看護部及び中央診療施設等を有 し、病床数845床(一般病床795床、精神病床50床)で、1日 平均の外来患者数は1.400人を超えています。

平成31年4月より、大学法人運営における病院の重要度を 考慮し、本学での組織的位置付けを「医学部附属」から「大学 附属」とし、病院名称も「熊本大学医学部附属病院」から「熊 本大学病院」へと変更されました。

本院は令和3年度に、一連の病棟等の建て替えや屋外環境 整備を行う再開発整備が完了し、防災機能を強化した安全安 心な環境の中で、質の高い医療・看護ケアを安定的に提供し ています。

また、診療体制としては、都道府県がん診療連携拠点病 院、肝疾患診療連携拠点病院等の指定も受けており、県内唯 一の特定機能病院として、熊本県の地域医療水準の向上にも 取り組んでいます。



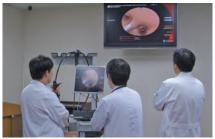
屋外環境整備工事完成写真

理念

本院は、高度な医療安全管理によって、患者本位の医療を実践し、医学の発展 及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

基本方針

- ・高度な医療安全管理体制による安全安心で質の高い医療サービスの提供
- ・患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
- ・先進医療の開発・推進と優れた医療人の育成
- ・地域社会に貢献できる医療・防災の拠点形成
- ・理念達成のための健全な運営・経営の実践



各診療科等の実習に対応できる臨床シミュレーション



ヒトレトロウイルス学共同研究センター

ヒトレトロウイルス学共同研究センターは、熊本大学エイズ学研究センター と鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターを再編・統合し、平成31年 4月に設置されました。

異なる国立大学の枠を越えた共同研究センターの設置は全国初の試みで あり、世界的課題である排除困難・潜伏感染するレトロウイルス感染症の克服 のため、限られた両センターの資源を有効活用し、感染病態の基礎研究を基 に、感染予防と治癒を目指した世界的な研究・教育を推進しています。

また、両センターがこれまでに積み上げてきた実績(熊本大学:エイズ研究、 鹿児島大学:HTLV-1·肝炎ウイルス研究)を踏まえ、運営の統一化によるス ケールメリットを活用し、ウイルス感染症の予防と治療法開発という目的を明



確にし、平時における"緊急時の備え"として重要なウイルス感染症研究の研究力、国際展開力、出口戦略、社会貢献を強化 するとともに、次世代人材の育成と「世界から見える」研究・教育拠点の形成を目指しています。

附属図書館

附属図書館は、中央館·医学系分館·薬学部分館で構成され、熊本大学の教育研究活動を支える学術情報基盤の1つとして活動 しています。ネットワークを通じてサービス(電子ジャーナル、図書発注、文献複写依頼等)を提供しており、いつでも利用できる図 書館となっています。また、一般市民への貸出、熊本大学学術リポジトリによる研究成果のインターネット公開、30年以上の実績を もつ貴重資料展などを実施しており、地域社会に対する学術情報提供の拠点として機能しています。

貴重資料

文庫名	内 容
阿蘇家文書	阿蘇家旧蔵の中世以降の古文書類(国指定重要文化財)
細川家北岡文庫	永青文庫・肥後藩政資料(国指定重要文化財を含む) 〈寄託資料〉
時習館文庫	旧藩校時習館の典籍類
松井家文書	旧松井男爵家旧蔵の古文書典籍類
菅 野 文 庫	菅野是政氏旧蔵の幕末期の蘭書
落合文庫	落合東郭氏旧蔵の漢籍類
柚 原 文 庫	柚原益樹氏旧蔵の支那哲学関係漢籍類
ポーター文庫	ウィリアム・ポーター氏五高在職当時の所蔵書
八雲文庫	小泉八雲に関する作品・伝記・評論の集積
仲光家文庫	旧熊本藩士、仲光家に伝わった古文書・典籍類
横井小楠文書	横井小楠に関係する古文書・古記録類





(中央館)館内

(中央館)外観

全国共同利用大型資料(人文·社会科学系)

THE THE PROPERTY OF THE PARTY O			
資料名 内 容			
英国議会資料 IPU BLUE BOOKS. 1,000Vols. 19世紀英国議会報告書の中から、主要な社会・政治的資料を1,000巻にまとめたもの			
SYNTHESE LIBRARY 認識論・論理学・社会哲学とその関連領域の史料 135巻			
民国二十年代中国 大陸土地問題資料			
少数民族と移出入民: 世界の少数民族に関する民族誌、少数民族問題の社会学的研究、地球レベルでの移民 地球規模の現象と課題 移動に関する研究及び書誌1セット(462冊 148リール)			
米 田 家 文 書	熊本藩第二家老米田家の近世初期·中期及び幕末期の文書群126点、書類約400綴 (要事前申請)		



永青文庫寄託「源氏物語」

学外オフィス

熊本大学東京オフィス(令和4年3月に移転)

設 平成16年4月

業務内容()本学の教育研究活動の情報発信

②入試情報の発信及び学生の就職活動支援

③同窓会組織との連携活動 ④各種セミナー及び会議等の開催

⑤産学連携の支援

郵便番号 〒100-0011

住 所 東京都千代田区内幸町2-1-4 日比谷中日ビル4階

TEL·FAX 03-6206-7336

E-mail tokyo-office@jimu.kumamoto-u.ac.jp

開館時間 平日10:00~17:00

休 館 日 土·日曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)



学外オフィス

熊本大学韓国KAISTオフィス

設 平成20年9月 開

業務内容 ①学術協力の推進

②両校合同研究シンポジウム開催支援 ③大学情報及び入試情報の発信、

広報活動の支援

郵便番号 〒305-701

住

所 291 Daehak-ro(373-1 Guseong-dong), Yuseong-gu,Daejeon, Korea(韓国科学技術 院(KAIST) Biomedical Research Center内)

熊本大学インドネシアITSオフィス 熊本大学大連オフィス 開 設 平成22年4月

業務内容 ①交流協定校等との学生交流・学術交流の促進 ②留学生の開拓及び留学予定者に対する 渡航前準備の支援

③産学官国際連携活動の促進 ④大学情報及び入試情報の発信、広報活動の支援 ⑤同窓会の支援拠点

郵便番号 T60,111

所 Gedung Pasca Sarjana Lantai 1 Kampus ITS Nopember Sukolilo-Surabaya Jawa Timur, Indonesia

設 平成23年3月

業務内容①大連理工大学及び中国北部の交流協 定校等の学生及び教職員への日本及び 熊本大学に関する情報の発信

> ②中国北部の卒業生及び関係者のネット ワーク形成

> ③中国北部の他の交流協定校等との関係 強化の取り組み ④その他中国北部での熊本大学の活動

郵便番号 〒116.024

所 中華人民共和国 大連市甘井子区凌工路2号







熊本大学スーダンオフィス

設 平成28年6月

業務内容 ①アフリカにおける研究教育交流の拠点 ②アフリカの交流協定校等の学生及び教

職員への日本及び熊本大学に関する情 報の発信

③アフリカの卒業生及び関係者のネット ワーク形成

④アフリカにおける本学の活動拠点

所 Faculty of Pharmacy, University of 往 Khartoum. P.O. Box: 1,996, Al-Qasr street, Khartoum 11,111, Sudan



熊本大学タンザニアオフィス

業務内容 ①タンザニアおよびサブサハラアフリカ地 域における本学の共同研究拠点

②タンザニアおよびサブサハラアフリカ地域 との教職員、学生およびインターンシップ 等の相互交流事業の支援

③在タンザニア・サブサハラアフリカの本学卒 業生等との持続的なネットワーク形成の支援

所 Office of Research and Publications. Muhimbili University of Health and Allied Sciences, 9 United Nations road Unanga Dar es Salaam Tanzania



熊本大学台湾南台オフィス

設 平成31年3月

業務内容 ①台湾における研究教育交流の拠点

②台湾の交流協定校等の学生及び教職員 への日本及び熊本大学に関する情報の 発信

③台湾の卒業生及び関係者のネットワーク

④台湾における本学の活動拠点

所 Office of International Affairs Southern Taiwan University of Science and Technology(STUST),No1, Nantai St., Yongkang Dist., Tainan City 71,005, Taiwan



国立六大学 共同事業所 国立六大学(千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学)の共同事務所として開設

国立六大学長春事務所

設 平成26年11月

業務内容 ①中国東北部の学生及び教職員への日本 及び国立六大学に関する情報の発信 ②中国東北部の卒業生及び関係者の

ネットワーク形成 ③中国東北部の交流協定校等との関係

強化の取り組み ④その他中国東北部での国立六大学の活動

郵便番号 〒130,117

所 中華人民共和国

長春市東北師範大学浄月校区

F +86-155-4,328-8,200



国立六大学欧州事務所

設 平成28年8月

住

業務内容 ①日蘭の学術的・文化的結びつきに関する

情報の発信 ②オランダ及びEU圏の大学間ネットワー クや国際共同教育プラットフォームとの 連携推進

③現地大学等に関する情報収集

④現地大学等の学生及び教職員への日本 及び国立六大学に関する情報の発信 ⑤国立六大学共同プログラムの実施·運営

SieboldHuis 5th floor, Rapenburg 19. 2,311 GE Leiden, The Netherlands



国立六大学バンコク事務所

設 平成29年7月

業務内容 ①タイ及びASEAN諸国における学生交 流プログラムの共同実施

②タイ及びASEAN諸国の学生及び教職 員への日本及び国立六大学に関する情 報の発信

③タイ及びASEAN諸国における産学官 国際連携活動の促進

4 ASEAN University Network (AUN) 加盟大学との交流促進

KMUTT Knowledge Exchange for Innovation Center (KX) 12F 110/1 Krung Thonburi Road, Banglamphulang, Khlongsan, Bangkok 10,600 THAILAND



国立六大学スラバヤ事務所

設 令和2年4月(熊本大学インドネシアITSオフィス共同利用)

熊本大学ミュージアム・歴史的建造物

五高記念館は国の重要文化財に指定され、本学のシンボルとなっています。このほかにも、重要文化財等の赤れんが建物群や 登録文化財となっている建物、また、他のキャンパスで保存・活用されている施設があり、これらの建物・施設・資料等から成る熊 本大学キャンパスミュージアム構想の実現を目指しています。

五高記念館(重要文化財)《_{黑髮北地区}》

明治20(1887)年、明治政府は全国を五学区に分け高等中学校を設置しました。九州全域は第五区となり熊本に第五高等中 学校が置かれ、明治22(1889)年には赤れんが造りの本館が現在地に完成しました。明治27(1894)年には第五高等学校と 名称が改まり、昭和25(1950)年の閉校までこの地に歴史を刻みました。

建物は小泉八雲や夏目漱石が教鞭をとった当時のままの教室棟で、五高の歴史を語る様々な資料を展示する資料館となっ ています。





復原教室

毎週火曜日、年末年始 ※3月~11月の祝日は開館

※12月~2月の土日と重ならない祝日 は休館

※大学行事の都合上、臨時開館及び 休館する場合あり

午前 10 時~午後 4 時 ※入館は午後 3 時 30 分まで

無料

熊薬ミュージアム (熊薬同窓会館) 《大江地区》

開学100年以上の歴史をもつ薬学部に関する貴重な資料や珍しい実験器具の 展示をはじめ、くすりの知識などを紹介する様々なコーナーを設置しています。



熊薬ミュージアム(熊薬同窓会館)



資料展示室





調剤器のいろいろ

肥後医育ミュージアム(肥後醫育記念館)

《本荘中地区》

宝暦6(1.756)年に肥後藩主・細川重賢公が創設した日本初の公立学校 である「再春館 | から現在に至るまで、常に時代に先駆けてきた肥後医育の 伝統と歴史を一堂に紹介しています。



肥後醫育記念館



館内の展示

每週土·日曜日、祝日、年末年始 午前 10 時~午後5時

無料



館内の展示

熊本大学ミュージアム・歴史的建造物

表門(重要文化財)《黑髮北地区》

通称赤門と呼ばれている五高の表門。本館と同じ時期に 建設されました。れんがと石を組み合わせた親柱と袖壁から なり、当初は親柱に表札がかけられていました。門を入ると サインカーブと呼ばれる道が本館まで通じています。



化学実験場(重要文化財)《黑髮北地区》

化学の実験棟として本館と同時期に建設されました。内部には 階段教室、薬品室、実験室が一列に並んでおり、当時としては最 新の化学実験設備「ドラフトチャンバー」を備えています。平成26 (2014)年3月に日本化学会の化学遺産に認定されました。



工学部研究資料館(重要文化財)

《黒髪南地区》

旧熊本高等工業学校の機械実験工場として明治 41(1908)年に完成し、大学に引き継がれた際に工学部中 央工場と改称し、昭和45(1970)年に新工場ができるまで 実験工場として使用されました。また、機械技術に関わる歴 史的遺産を次世代に伝えようと平成19(2007)年に設けら れた日本機械学会の「機械遺産」に、同年、館内の工作機械 群とともに認定されました。



山崎記念館(登録有形文化財)

《本荘北地区》

医学部の中興の祖と称えら れる山崎正董博士の功績を記 念して、昭和6(1931)年に建 設されました。内部を一般公開 し末永く保存するため、平成18 (2006)年、中央診療棟新築の 際、建物ごと48メートル移動さ せました。





工学部研究資料館(外観)



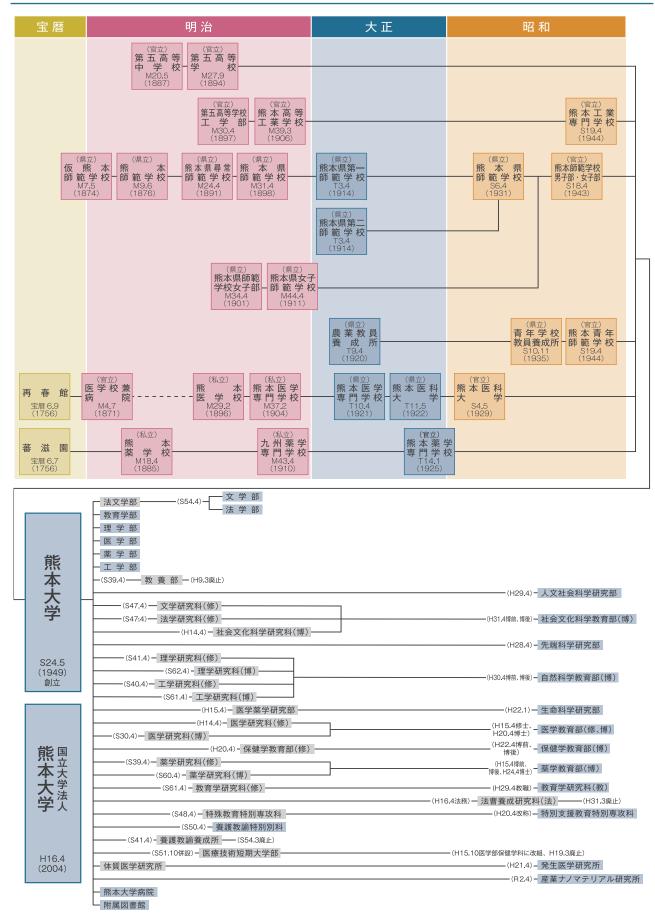
山崎記念館(外観)

資 料 編

目次

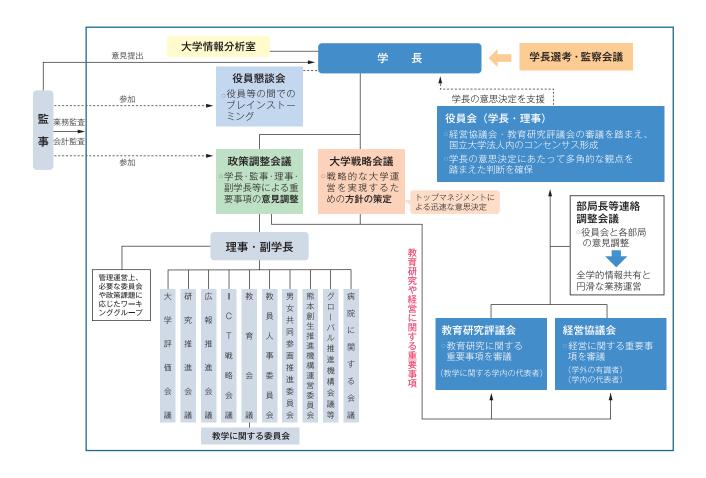
· 沿革略図 ·······	23
・法人運営組織概念図、歴代学長	24
· 役職員 ······	
·組織図 ·······	26
· 役職員数 ·······	27
・学生・生徒・児童及び幼児数	28
·入学状況 ······	31
・卒業・修了後の状況	32
· 学位授与数、奨学生数 ····································	34
· 国際交流協定 ······	35
・教職員の海外渡航者数及び外国人研究者等受入数	37
・本学学生の海外留学状況	38
· 海外語学セミナー等 ····································	
·出身地域別·出身国別外国人留学生数 ·······	40
·生涯学習······	41
・ボランティア活動	
·寄附講座等、共同研究講座等······	42
·包括的連携協定等 ····································	43
・令和4年度収入・支出予算額、主な競争的資金採択状況・	44
·科学研究費助成事業採択状況、外部資金等受入状況	
·病院、附属図書館、五高記念館 ·······	46
·福利厚生施設 ······	
·土地·建物面積 ······	
·位置図	
・主要施設等配置図	50

沿革略図



※詳細な沿革図は熊本大学ウェブサイトからダウンロードできます。 URL:https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/gaiyo/gaiyou/index

法人運営組織概念図



歴代学長

	氏 名	就任年月日
事務取扱	鰐淵 健之	昭和24年 5月31日
初 代	鰐淵 健之	昭和25年 1月18日
2 代	本田 弘人	昭和34年 5月26日
3 代	柳本武	昭和40年 5月26日
事務取扱	荒木 雄喜	昭和44年 2月12日
事務取扱	忽那 将愛	昭和44年 4月 5日
4 代	六反田藤吉	昭和44年10月17日
事務取扱	黒田 正巳	昭和45年 8月31日
5 代	黒田 正巳	昭和45年11月20日
6 代	岳中 典男	昭和49年11月20日

		氏 名	就任年月日
7	代	松山 公一	昭和55年11月20日
8	代	松角 康彦	昭和61年11月20日
9	代	森野 能昌	平成 2 年11月20日
10	代	江口 吾朗	平成 8 年11月20日
11	代	﨑元 達郎	平成14年11月20日
法人化	心初代	﨑元 達郎	平成16年 4月 1日
12	代	谷口 功	平成21年 4月 1日
13	代	原田 信志	平成27年 4月 1日
14	代	小川 久雄	令和 3 年 4月 1日

R4.5.1 現在

役職員

役員	役員			
学長	₹	小川	久雄	
	大学改革·評価担当(副学長)	富澤	一仁	
	研究・グローバル戦略担当(副学長)	大谷	順	
理事	教育·学生支援担当(副学長)	宇佐川	毅	
事	人事·労務担当(副学長)	八幡	英幸	
	財務·施設担当(事務局長)	新田	正樹	
	広報・ブランディング担当(非常勤)	宮尾 千	加子	
監事	業務監査	園田	隆則	
事	会計監査 (非常勤・公認会計士)	立石	和裕	

副学長		
戦略、病院経営担当(病院長)	馬場	秀夫
戦略、地方創生・地域連携担当	甲斐	広文
戦略、産学連携担当	清水	聖幸
入試·高大連携担当	市川	聡夫
グローバル教育・法務担当	伊藤	洋典
キャンパスミュージアム担当	小畑	弘己
男女共同参画担当	前田 7	ひとみ

菱山	豊

学长符別佣佐					
I R担当	総合情報統括センター	教授	中野	裕司	
教育改革担当	大学院先端科学研究部	教授	宮﨑	誓	
就職協働担当	大学院先端科学研究部	准教授	伊賀崎	伴彦	

副理争				
研究不正防止担当	大学院生命科学研究部	教授	門岡	康弘
国際担当	大学院先端科学研究部	教授	岸田	光代
広報担当	大学院人文社会科学研究部	教授	茂木	俊伸

学長 小川 大学改革·評価担当(副学長) 富澤	久雄
大学改革・評価担当(副学長) 富澤	> (1-qm
7 (3 3 (1)) 11 12 12 12 12 12 12	一仁
研究・グローバル戦略担当(副学長) 大谷	順
理 教育·学生支援担当(副学長) 宇佐J	毅
人事・労務担当(副学長) 八幡	英幸
財務·施設担当(事務局長)新田	正樹
病院長馬場	秀夫
九州旅客鉄道株式会社上席執行役員 総合企画本部副本部長 兼経営企画部長	由美
ボストン・コンサルティング・グループ 日本共同代表 秋池	玲子
京都精華大学全学研究機構長 兼人間環境デザインプログラム教授	by Sacko
株式会社肥後銀行代表取締役頭取	慶久
学	統晴
桜十字病院理事長・院長 倉津	純一
一般社団法人機械振興協会副会長 兼技術研究所長 後藤	芳一
熊本県副知事 田嶋	徹
熊本県文化協会副会長原	幸代子
熊本大学同窓会連合会会長 武夫原会会長 村田	信一
株式会社テレビ熊本取締役会長本松	賢

教育	育研究評議会	
学長	ŧ	小川 久雄
	大学改革・評価担当(副学長)	富澤 一仁
	研究・グローバル戦略担当(副学長)	大谷 順
理事	教育·学生支援担当(副学長)	宇佐川 毅
-	人事・労務担当(副学長)	八幡 英幸
	財務・施設担当(事務局長)	新田 正樹
	戦略、病院経営担当(病院長)	馬場 秀夫
ᆵ	戦略、地方創生・地域連携担当	甲斐 広文
副学	戦略、産学連携担当	清水 聖幸
長	入試・高大連携担当	市川 聡夫
	男女共同参画担当	前田 ひとみ
	文学部長	水元 豊文
l	教育学部長	藤田 豊
学部	法学部長	大日方 信春
HIP	理学部長	藤本 斉
	工学部長	連川 貞弘
	大学院人文社会科学研究部長	水元 豊文
	大学院先端科学研究部長	連川 貞弘
	大学院生命科学研究部長	山縣 和也
大学院	大学院社会文化科学教育部長	林 一郎
院	大学院自然科学教育部長	藤本 斉
	大学院医学教育部長	山縣 和也
	大学院保健学教育部長	田代 浩徳
	大学院薬学教育部長	森岡 弘志
附層	図書館長	田中 朋弘
発生	医学研究所長	丹羽 仁史
産業	(ナノマテリアル研究所長	伊田 進太郎
総合	情報統括センター長	杉谷 賢一
くま	もと水循環・減災研究教育センター長	柿本 竜治
先進	マグネシウム国際研究センター長	河村 能人
生命	資源研究・支援センター長	尾池 雄一
ヒト	レトロウイルス学共同研究センター長	松下修三

部	司長等	
	文学部長	水元 豊文
	附属漱石・八雲教育研究センター長	濱田 明
	教育学部長	藤田豊
	附属教育実践総合センター長	干川 隆
	附属学校統括長	井福 裕俊
	附属幼稚園長	宮村 まり
	附属小学校長	中野 浩幸
	附属中学校長	山本 一雄
学部	附属特別支援学校長	歳田 和子
пР	法学部長	大日方 信春
	附属地域の法と公共政策教育研究センター長	大日方 信春
	理学部長	藤本 斉
	医学部長	山縣 和也
	薬学部長	森岡 弘志
	工学部長	連川 貞弘
	附属工学研究機器センター長	松田 元秀
	附属グローバル人材基礎教育センター長	井原 敏博
	大学院教育学研究科長	八幡 彩子
	大学院人文社会科学研究部長	水元 豊文
	附属国際人文社会科学研究センター	伊藤 正彦
	大学院先端科学研究部長	連川 貞弘
	附属イノベーション研究教育センター長	連川 貞弘
	附属生物環境農学国際研究センター長	澤進一郎
	附属半導体研究教育センター長	青柳 昌宏
	大学院生命科学研究部長	山縣 和也
	附属エコチル調査南九州・沖縄ユニットセンター長	加藤 貴彦
太	附属臨床医学教育研究センター長	尾池 雄一
大学院	附属健康長寿代謝制御研究センター長	荒木 栄一
1,0	附属グローバル天然物科学研究センター長	三隅 将吾
	附属ワクチン開発研究センター長	森岡 弘志
	附属生体情報研究センター長	田代 浩徳
	大学院社会文化科学教育部長	林 一郎
	大学院自然科学教育部長	藤本斉
	附属総合科学技術共同教育センター長	藤本斉
	大学院医学教育部長	山縣 和也
	大学院保健学教育部長	田代 浩徳
	大学院薬学教育部長	森岡 弘志
発生	医学研究所長	丹羽 仁史
_	村属臓器再建研究センター長	西中村 隆一
	対属高深度オミクス研究センター長	石黒 啓一郎

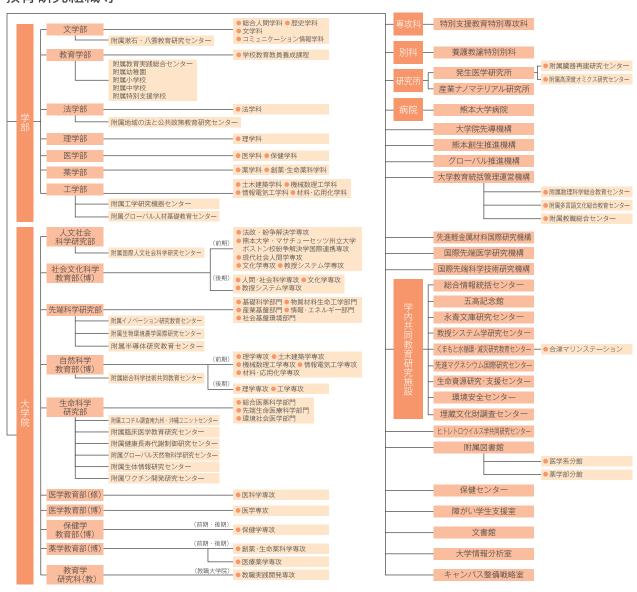
産業ナノマテリアル研究所長	伊田 進	太郎
病院長	馬場	秀夫
大学院先導機構長	小川	久雄
熊本創生推進機構長	大谷	順
グローバル推進機構長	大谷	順
大学教育統括管理運営機構長	宇佐川	毅
附属数理科学総合教育センター長	宇佐川	毅
附属多言語文化総合教育センター長	宇佐川	毅
附属教職総合センター長	宇佐川	毅
先進軽金属材料国際研究機構長	河村	能人
国際先端医学研究機構長	須田	年生
国際先端科学技術研究機構長	高島	和希
総合情報統括センター長	杉谷	賢一
五高記念館長	伊東	龍一
永青文庫研究センター長	稲葉	継陽
教授システム学研究センター長	喜多	敏博
くまもと水循環・減災研究教育センター長	柿本	竜治
先進マグネシウム国際研究センター長	河村	能人
生命資源研究・支援センター長	尾池	雄一
環境安全センター長	外川	健一
埋蔵文化財調査センター長	新井	英永
ヒトレトロウイルス学共同研究センター長	松下	修三
附属図書館長	田中	朋弘
保健センター長	藤瀬	昇
技術本部長	大谷	順

技術支援組織		
技術本部長	大谷	順
技術部長(兼:自然科学系第二技術室長)	上村	実也
生命科学系技術室長	中川	雄伸
自然科学系第一技術室長	吉永	徹
自然科学系第二技術室長	上村	実也
自然科学系第三技術室長	辻	—隆

事務部門			
	監査室長	芦江	睦夫
1	経営企画本部長	辻	直人
経営企画本部	課長(経営企画担当)	岸	良一
1	課長(大学政策支援担当)	興梠	由華
1	研究・社会連携部長	井口	英樹
研究·	研究推進課長	内田	浩
社会連携部	社会共創推進課長	内山	佳世
ļ	産学連携推進課長	古庄	宏光
[国際部長(兼:国際戦略課長)	入口	英典
国際部	国際戦略課長	入口	英典
[国際教育課長	野中多	菜穂美
ā	教育研究支援部長	後藤	正三
	図書館課長	濵﨑	千雅
教育研究 支援部	情報企画課長	小﨑	一哉
	人社・教育系事務課長	原	祐輔
	自然科学系事務課長	五十屆	(孝一
	生命科学系事務部長	川添	光芳
生命科学系事務部	医薬保健学系事務課長	田代	え美子
	生命科学先端研究事務課長	清永	哲治
	学生支援部長	内山	裕二
-	教育支援課長	池上	多美子
学生支援部	学生生活課長	坂田	治
[.	入試課長	福田	くみ
]	就職支援課長	清永	政治
-	事務部長	山下	恵太
7	総務課長	中島	勇
病院事務部	経営戦略課長	田邊	豪
/内P元争/分印 注	経理課長	山下	繁俊
	医事課長	太田馬	!邦雄
	医療サービス課長	竹本	浩
7	総務部長	西川	毅
総務部	総務課長	木下	聖一
和37万百0	人事課長	立山	三雄
	労務課長	森田	寿裕
]	財務部長	上野	弘文
財務部	財務課長心得(副課長)	渡辺	寿生
	契約課長	有働	征洋
7	施設部長	内村	好美
施設部	施設企画課長	横田	幹夫

組織図

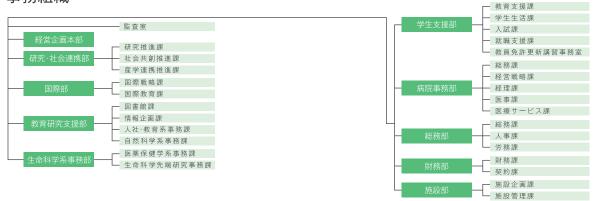
教育研究組織等



技術支援組織



事務組織



役職員数

役員等数

(人)

学 長	理事	監 事	副学長(教員等が兼務)
1	6	2	7

職員数 R4.5.1 現在(人)

区 分	 教授	准教授	講師	助教	助手	教諭等	教員計	事務・技術職員等	計
教育学部						83	83 (33)		83 (33)
大学院教育学研究科	31	24	1				56 (14)		56 (14)
大学院人文社会科学研究部	50	62	5	1	1		119 (36)		119 (36)
大学院先端科学研究部	83	68	2	29			182 (17)		182 (17)
大学院生命科学研究部	74	46	13	88			221 (40)	3 (2)	224 (42)
発生医学研究所	8	7	4	7			26 (4)		26 (4)
産業ナノマテリアル研究所	8	9		2			19 (2)		19 (2)
病院	15	9	30	137			191 (33)	1,157 (943)	1,348 (976)
大学院先導機構	1	7		6			14 (2)		14 (2)
熊本創生推進機構	4	3					7	3 (2)	10 (2)
大学教育統括管理運営機構	4	4	2	3			13 (5)		13 (5)
国際先端医学研究機構	4	6	1				11 (1)	11 (8)	22 (9)
国際先端科学技術研究機構	2	2					4		4 (0)
総合情報統括センター	4	1		1			6		6 (0)
五高記念館		1					1		1 (0)
永青文庫研究センター	1	1					2		2 (0)
教授システム学研究センター	3	2					5 (1)		5 (1)
くまもと水循環・減災研究教育センター	5	6		2			13 (1)		13 (1)
先進マグネシウム国際研究センター	4	3		1			8		8 (0)
生命資源研究・支援センター	4	2	1	3			10 (2)		10 (2)
環境安全センター		1					1		1 (0)
埋蔵文化財調査センター		1		2			3 (1)		3 (1)
ヒトレトロウイルス学共同研究センター	6	1	2	1			10		10 (0)
保健センター	1	1		1			3 (1)	2 (2)	5 (3)
技術部							0	82 (12)	82 (12)
事務部門							0	444 (205)	444 (205)
合 at	312 (30)	267 (54)	61 (10)	284 (65)	1 (1)	83 (33)	1,008 (193)	1,702 (1,174)	2,710 (1,367)

教員年齢構成

R4.5.1 現在(人)

年代	教授	准教授	講師	助教・助手	計
~ 29				1	1
30 ~ 39	1	28	3	94	126
40 ~ 49	45	117	40	157	359
50 ~ 59	136	93	13	29	271
60 ~	130	29	5	4	168
合 計	312	267	61	285	925

[※]令和4年度末年齢による

^{※()}は女性数で内数。※育児休業者等を含む。 ※教員には個別契約職員 (特定事業教員、共同研究分野教員、寄附研究分野教員、寄附講座教員、非常勤教員、病院教員、シニア教員、特命教員、卓越教授、校長のうち常勤の者)を含む。 ※再雇用職員は除く。

学生・生徒・児童及び幼児数

学生数(学部) R4.5.1 現在(人)

子土奴(子叩)																					R4.5	5.1 現在	王 (人)
													現員										
学科・課程	入学定員	総定員		1 年次		2 年次			3 年次		4 年次		5 年次			6 年次				計			
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学部	170	700	67	115	182	65	121	186	74	118	192	81	135	216							287	489	776
総合人間学科	55	220	22	37	59	20	40	60	25	32	57	36	43	79							103	152	255
歴史学科	35	140	21	16	37	20	17	37	20	20	40	23	24	47							84	77	161
文学科	50	200	17	31	48	16	33	49	15	38	53	15	36	51							63	138	201
コミュニケーション情報学科	30	120	7	31	38	9	31	40	14	28	42	7	32	39							37	122	159
(学部共通)		20			0			0			0			0									
※グローバルリーダーコース	(10)		(1)	(9)	10	(1)	(9)	10	(2)	(8)	10	(0)	(10)	10							(4)	(36)	40
教育学部	220	910	88	147	235	82	156	238	85	156	241	116	157	273							371	616	987
小学校教員養成課程	_	330	1	0	1	44	66	110	38	73	111	65	64	129							148	203	351
中学校教員養成課程	_	210	4	0	4	33	42	75	41	37	78	44	44	88							122	123	245
特別支援教育教員養成課程	_	60	0	0	0	5	16	21	6	15	21	7	17	24							18	48	66
養護教諭養成課程	_	90	1	0	1	0	32	32	0	31	31	0	32	32							1	95	96
	220	220	82	147	229	0	0	0	0	0	0	0	0	0							82	147	229
法学部	210	860	108	109	217	136	109	245	106	95	201	107	119	226							457	432	889
	210	840	108	109	217	136	109	245	106	95	201	107	119	226							457	432	889
(学部共通)		20			0			0			0			0									
※グローバルリーダーコース	(10)		(2)	(6)	8	(3)	(10)	13	(0)	(8)	8	(5)	(7)	12							(10)	(31)	41
理学部	200	800	144	58	202	161	59	220	149	60	209	160	45	205							614	222	836
理学科	200	800	144	58	202	161	59	220	149	60	209	160	45	205							614	222	836
※グローバルリーダーコース	(10)		(5)	(4)	9	(3)	(9)	12	(4)	(4)	8	(4)	(4)	8							(16)	(21)	37
医学部	254	1,283	122	147	269	104	169	273	119	142	261	125	154	279	81	37	118	83	42	125	634	691	1,325
	110	675	92	28	120	64	44	108	87	33	120	95	36	131	81	37	118	83	42	125	502	220	722
保健学科	144	576	30	119	149	40	125	165	32	109	141	30	118	148							132	471	603
(保健学科共通)		32			0			0			0			0									
薬学部	90	470	62	40	102	49	39	88	61	37	98	45	52	97	27	30	57	20	30	50	264	228	492
薬学科	55	330	39	22	61	26	27	53	35	25	60	24	34	58	27	30	57	20	30	50	171	168	339
創薬·生命薬科学科	35	140	23	18	41	23	12	35	26	12	38	21	18	39							93	60	153
工学部	513	2,142	420	101	521	402	111	513	463	119	582	552	116	668							1,837	447	2,284
土木建築学科	124	516	82	47	129	83	44	127	104	37	141	105	42	147							374	170	544
機械数理工学科	109	456	109	4	113	101	5	106	116	8	124	121	13	134							447	30	477
情報電気工学科	149	636	137	9	146	133	14	147	159	19	178	187	13	200							616	55	671
材料・応用化学科	131	534	92	41	133	85	48	133	84	55	139	106	46	152							367	190	557
物質生命化学科	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2							0	2	2
マテリアル工学科	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3							3	0	3
機械システム工学科	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10							10	0	10
社会環境工学科	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3							3	0	3
建築学科	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3							3	0	3
情報電気電子工学科	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	13							13	0	13
数理工学科	_	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1							1	0	1
(学部共通)		0			0			0			0			0									
※グローバルリーダーコース	(20)		(10)	(2)	12	(6)	(8)	14	(8)	(1)	9	(12)	(6)	18							(36)	(17)	53
合 計	1,657	7,165			1,728				1,057			1,186		1,964		67	175	103	72	175		3,125	

※外国人留学生を含む。 ※「グローバルリーダーコース」欄の入学定員の()内は、各学科の入学定員の内数。

学生・生徒・児童及び幼児数

学生数(大学院)

修士課程・博士前期課程

R4.5.1 現在(人)

				現員									
学科・課程	入学定員	総定員		1 年次			2年次			計			
			男	女	計	男	女	計	男	女	計		
教育学研究科(修士)		0	0	0	0	1	0	1	1	0	1		
学校教育実践専攻		0	0	0	0	1	0	1	1	0	1		
社会文化科学教育部(博士前期課程)	69	135	27	36	63	42	41	83	69	77	146		
法政·紛争解決学専攻	14	25	3	6	9	14	10	24	17	16	33		
熊本大学・マサチューセッツ州立大学ボストン校紛争解決学国際連携専攻	4	8	0	0	0	0	1	1	0	1	1		
公共政策学専攻	_	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1		
現代社会人間学専攻	18	36	5	7	12	6	8	14	11	15	26		
文化学専攻	18	36	6	16	22	5	9	14	11	25	36		
教授システム学専攻	15	30	13	7	20	16	13	29	29	20	49		
自然科学教育部(博士前期課程)	443	886	396	73	469	385	58	443	781	131	912		
理学専攻	110	220	74	17	91	73	19	92	147	36	183		
土木建築学専攻	75	150	65	20	85	70	14	84	135	34	169		
機械数理工学専攻	65	130	79	6	85	73	1	74	152	7	159		
情報電気工学専攻	103	206	110	4	114	108	3	111	218	7	225		
材料·応用化学専攻	90	180	68	26	94	61	21	82	129	47	176		
医学教育部(修士課程)	20	40	7	6	13	15	12	27	22	18	40		
医科学専攻	20	40	7	6	13	15	12	27	22	18	40		
保健学教育部(博士前期課程)	24	48	9	12	21	14	12	26	23	24	47		
保健学専攻	24	48	9	12	21	14	12	26	23	24	47		
薬学教育部(博士前期課程)	35	70	17	18	35	26	12	38	43	30	73		
創薬·生命薬科学専攻	35	70	17	18	35	26	12	38	43	30	73		
合 計	591	1,179	456	145	601	483	135	618	939	280	1,219		

[※]外国人留学生を含む。

博士課程・博士後期課程

R4.5.1 現在(人)

										現員							
学科・課程	入学定員	総定員		1 年次			2 年次			3年次			4 年次			計	
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
社会文化科学教育部(博士後期課程)	15	45	6	3	9	9	4	13	18	24	42				33	31	64
人間·社会科学専攻	6	18	4	1	5	3	3	6	12	9	21				19	13	32
文化学専攻	6	18	1	0	1	3	0	3	0	6	6				4	6	10
教授システム学専攻	3	9	1	2	3	3	1	4	6	9	15				10	12	22
自然科学研究科(博士後期課程)			0	0	0	0	0	0	7	0	7				7	0	7
理学専攻			0	0	0	0	0	0	1	0	1				1	0	1
複合新領域科学専攻			0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
産業創造工学専攻			0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0
情報電気電子工学専攻			0	0	0	0	0	0	3	0	3				3	0	3
環境共生工学専攻			0	0	0	0	0	0	3	0	3				3	0	3
自然科学教育部(博士後期課程)	58	174	25	17	42	30	5	35	42	6	48				97	28	125
理学専攻	12	36	4	6	10	11	0	11	10	2	12				25	8	33
工学専攻	46	138	21	11	32	19	5	24	32	4	36				72	20	92
医学教育部(博士課程)	88	352	72	27	99	63	31	94	62	14	76	54	32	86	251	104	355
医学専攻	88	352	72	27	99	63	31	94	62	14	76	54	32	86	251	104	355
保健学教育部(博士後期課程)	6	18	1	4	5	1	3	4	8	18	26				10	25	35
保健学専攻	6	18	1	4	5	1	3	4	8	18	26				10	25	35
薬学教育部(博士後期課程)	10	30	10	6	16	6	4	10	7	13	20				23	23	46
創薬·生命薬科学専攻	10	30	10	6	16	6	4	10	7	13	20				23	23	46
薬学教育部(博士課程)	8	32	7	2	9	1	0	1	4	3	7	3	1	4	15	6	21
医療薬学専攻	8	32	7	2	9	1	0	1	4	3	7	3	1	4	15	6	21
合 計	185	651	121	59	180	110	47	157	148	78	226	57	33	90	436	217	653

[※]外国人留学生を含む。

教育学研究科(教職大学院の課程)

R4.5.1 現在(人)

							現員				
名称	入学定員	総定員		1 年次			2年次			計	
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
教職実践開発専攻	30	60	18	7	25	23	16	39	41	23	64

学生数(専攻科·別科)

専攻科(修業年限1年)

R4.5.1 現在(人)

名 称	総定員	男	女	計
特別支援教育特別専攻科	15	2	6	8

別科(修業年限1年)

R4 .5.1 現在 (人)

名 称	総定員	男	女	計
養護教諭特別別科	40	1	51	52

生徒・児童・幼児数

教育学部附属学校 R4.5.1 現在(人)

3541																									- (/(/
															現員										
	区分	入学定員	総定員	学級数		1 年次		:	2 年次			3 年次			4 年次	:		5 年次			6 年次			計	
					男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
小学	校	105	630	18	54	54	108	54	54	108	54	54	108	53	54	107	53	54	107	53	53	106	321	323	644
中学	!校	160	480	12	80	80	160	79	80	159	79	81	160										238	241	479
特別	小学部	6	18	複式 3	2	1	3	2	1	3	1	2	3	1	2	3	1	1	2	2	1	3	9	8	17
特別支援学校	中学部	6	18	3	5	1	6	3	3	6	4	2	6										12	6	18
校 **	高等部	8	24	3	8	0	8	4	4	8	5	4	9										17	8	25
幼	3 年保育	30	1.40	_		3 歳児			4 歳児			5 歳児													
幼稚園	2年保育	25	140	5	15	16	31	27	26	53	24	15	39										66	57	123

[※] 特別支援学校については標準学級定員。

入学状況

学部 令和4年度入試(人)

X	分	入学定員		入学志願者			入学者	
<u> </u>	_य	八子疋貝	男	女	計	男	女	計
文学部		170	223	353	576	64	115	179
教育学部		220	150	314	464	82	147	229
法学部		210	349	262	611	108	109	217
理学部		200	372	188	560	144	58	202
医学部	医学科	110	307	174	481	81	27	108
医子部	保健学科	144	89	267	356	30	119	149
薬学部		90	184	167	351	57	39	96
工学部		513	930	225	1,155	419	101	520
合	計	1,657	2,604	1,950	4,554	985	715	1,700

[※]マレーシア政府派遣留学生数2名(外数) ※4月入学者のみ計上(第3年次編入学を除く)。

大学院 令和4年度入試(人)

X	分	入学定員		入学志願者			入学者	
<u></u>)J	八子疋貝	男	女	Ħ	男	女	計
教育学研究科	教職大学院	30	19	8	27	18	7	25
社会文化科学	前期	69	53	49	102	27	36	63
教育部	後期	15	15	7	22	6	3	9
自然科学教育部	前期	443	444	82	526	375	71	446
日然科子教育部	後期	58	14	9	23	13	9	22
医学教育部	修士	20	11	6	17	7	5	12
达子 教育部	博士	88	56	18	74	57	16	73
保健学教育部	前期	24	11	13	24	9	12	21
沐陛子叙目即	後期	6	1	4	5	1	4	5
	前期	35	20	19	39	16	18	34
薬学教育部	後期	10	10	6	16	10	6	16
	博士	8	5	1	6	5	1	6
合	計	806	659	222	881	544	188	732

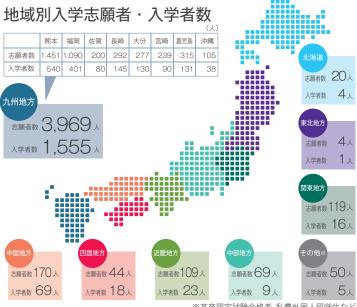
^{※4}月入学者のみ計上。

専攻科 令和4年度入試(人)

区分	入学	入	、学志願:	者		入学者	
△ ガ	定員	男	女	計	男	女	計
特別支援教育 特別専攻科	15	3	8	11	2	6	8

別科 令和4年度入試(人)

区分	入学	入	学志願:	者		入学者	
ال ک	定員	男	女	計	男	女	計
養護教諭特別別科	40	2	74	76	1	51	52



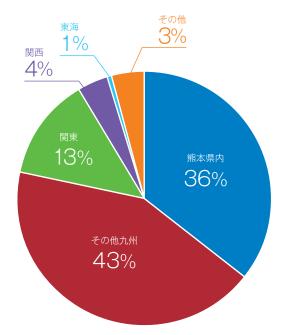
卒業・修了後の状況

学部 R4.5.1 現在(人)

<u> </u>																					H4.5	現1	王 (人)	
											学			部										
区分	:	文学部		教	女育学部	ß	;	法学部		:	理学部		ا	医学部		i	薬学部			工学部			計	
	男	女	計	男	女	ā†	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	āt
進 学 者 数	6	9	15	12	3	15	8	11	19	82	18	100	6	5	11	18	17	35	294	50	344	426	113	539
就 職 者 数	29	110	139	75	111	186	90	86	176	42	25	67	17	108	125	27	27	54	135	51	186	415	518	933
農·林·漁業·鉱業·建設業		3	3	1	2	3		7	7	2		2			0			0	23	10	33	26	22	48
製造業	8	6	14		2	2	2	4	6	2	5	7	1	1	2	6	2	8	37	19	56	56	39	95
電気・ガス・熱供給・水道業		1	1			0	2	2	4	2		2			0			0	2	1	3	6	4	10
情報通信業、運輸業	4	27	31	5	5	10	12	5	17	4	1	5			0	1		1	29	6	35	55	44	99
卸売業·小売業	2	19	21	2	2	4	8	2	10		4	4			0	5	8	13	3	1	4	20	36	56
金融業·保険業	1	9	10	2	1	3	13	12	25	3	1	4			0			0			0	19	23	42
不動産·飲食·宿泊業	1	4	5	2	2	4	2	2	4			0			0			0	1		1	6	8	14
医療、福祉	3	4	7		3	3	1	2	3	1		1	16	88	104	14	13	27	2		2	37	110	147
教育、学習支援業		5	5	51	83	134	3		3	12	6	18			0			0		1	1	66	95	161
サービス業	3	12	15	1	2	3	10	8	18	4		4			0		1	1	14	4	18	32	27	59
公務	6	20	26	11	9	20	36	42	78	12	8	20		19	19	1	3	4	22	9	31	88	110	198
上記以外	1		1			0	1		1			0			0			0	2		2	4	0	4
そ の 他	11	18	29	12	22	34	19	10	29	11	4	15	70	38	108	2	1	3	12	3	15	137	96	233
合 計	46	137	183	99	136	235	117	107	224	135	47	182	93	151	244	47	45	92	441	104	545	978	727	1,705
																							121	1,705

^{※「}就職者」は、正規の職員として最終的に就職した者(1 年以上の非正規職員として就職した者を含む)。自営業についた者は「就職者」とみなす。(平成18年度~) ※「その他」は、未定、資格試験準備者、進学準備者、家事手伝い及び就職の意思のない者等。





卒業・修了後の状況

修士(博士前期)課程

R4.5.1 現在(人)

															大	学院	ŧ										
	区	分		教育	学研究	究科		会文(学教育		医:	学教育	部	保健	学教育	育部	薬:	学教育	部	自然	科学教	育部	自然	科学研	究科		計	
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
進	学	者	数			0	3	1	4	8	4	12		1	1	8	7	15	13	8	21			0	32	21	53
就	職	者	数	1		1	22	15	37	4	2	6	9	11	20	13	6	19	323	71	394			0	372	105	477
	農·林·漁業	≹·鉱業·	建設業			0	1	1	2			0			0			0	22	6	28			0	23	7	30
	製造業					0	2	2	4	1		1	2	1	3	9	3	12	193	32	225			0	207	38	245
	電気・ガス・	·熱供給·	水道業			0			0			0			0			0	5	1	6			0	5	1	6
	情報通信	業、運輸	詳			0	2	1	3			0			0			0	41	9	50			0	43	10	53
	卸売業・小	小売業				0	2	1	3	2	1	3	1	1	2	2		2	6		6			0	13	3	16
	金融業·倪	保険業				0	2		2			0			0			0			0			0	2	0	2
	不動産·食	饮食·宿	泊業			0			0			0			0			0		3	3			0	0	3	3
	医療、福祉	Ŀ		1		1	3	2	5	1	1	2	6	8	14	1	1	2	1	1	2			0	13	13	26
	教育、学習	冒支援 業	ŧ			0	6	4	10			0			0			0	5		5			0	11	4	15
	サービス	業				0	3		3			0		1	1	1	1	2	45	16	61			0	49	18	67
	公務					0		2	2			0			0		1	1	5	3	8			0	5	6	11
	上記以外					0	1	2	3			0			0			0			0			0	1	2	3
そ	0	0	他	0	0	0	5	16	21	0	2	2	1	0	1	1	0	1	16	4	20	0	0	0	23	22	45
	合	計		1		1	30	32	62	12	8	20	10	12	22	22	13	35	352	83	435			0	427	148	575

^{※「}就職者」は、正規の職員として最終的に就職した者(1 年以上の非正規職員として就職した者を含む)。自営業についた者は「就職者」とみなす。(平成 18年度~) ※「その他」は、未定、資格試験準備者、進学準備者、家事手伝い及び就職の意思のない者等。

博士(博士後期)課程·専門職学位課程

R4.5.1 現在(人)

															大	学	完										
	D	≅分			t会文化 学教育		医:	学教育	部	保健	学教育	育部	薬	学教育	部	自然	科学教	育部	自然	科学研	究科		育学研究 大学院の			計	
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
進	学	者	数			0			0			0			0			0			0			0	0	0	0
勍	職	者	数	2	4	6	35	12	47	2		2	11	5	16	17	4	21	3	1	4	16	8	24	86	34	120
	農·林·漁	業·鉱業·	建設業			0			0			0			0	1		1	1		1			0	2	0	2
	製造業					0			0			0	4	1	5	7		7	2	1	3			0	13	2	15
	電気・ガス	·熱供給·	水道業			0			0			0			0	1		1			0			0	1	0	1
	情報通信	業、運輸	詳			0			0			0			0			0			0			0	0	0	0
	卸売業・	小売業				0			0			0	1		1			0			0			0	1	0	1
	金融業・	保険業				0			0			0			0			0			0	1		1	1	0	1
	不動産・	飲食·宿	泊業			0			0			0			0			0			0			0	0	0	0
	医療、福	祉				0	34	5	39	1		1	5	2	7			0			0			0	40	7	47
	教育、学	習支援業	*	2	3	5		4	4			0	1	2	3	4	3	7			0	15	8	23	22	20	42
	サービフ	ス業			1	1	1	3	4	1		1			0	3	1	4			0			0	5	5	10
	公務					0			0			0			0	1		1			0			0	1	0	1
	上記以夕	+				0			0			0			0			0			0			0	0	0	0
7	- (の	他	0	0	0	21	5	26	0	1	1	1	2	3	10	3	13	3	1	4	1	1	2	36	13	49
	合	計		2	4	6	56	17	73	2	1	3	12	7	19	27	7	34	6	2	8	17	9	26	122	47	169

^{※「}就職者」は、正規の職員として最終的に就職した者(1 年以上の非正規職員として就職した者を含む)。自営業についた者は「就職者」とみなす。(平成 18年度〜) ※「その他」は、未定、資格試験準備者、進学準備者、家事手伝い及び就職の意思のない者等。

| 学位授与数 |

			新	制	(1+)
∑ ∑	分		程	論	 文
		令和3年度	累計	令和3年度	累計
	文 学	1	86	1	23
	公共政策学		24		4
	法 学		9		0
	理 学	5	248		32
	工 学	19	764		110
	学 術	17	432		21
博士	医 学	54	2,397	20	1,062
I4 T	保 健 学	2	20		2
	看 護 学	1	4		0
	薬 学	4	311		156
	薬 科 学	14	71		12
	臨 床 薬 学		7		0
	生 命 科 学		27		6
	健康生命科学		4		0
法務性	事士(専門職)		189		0
	文 学	30	1,167		
	教 育 学	1	1,300		
	法 学	6	493		
	公 共 政 策 学	1	101		
	医 科 学	19	367		
	看 護 学	3	79		
	保 健 学	19	169		
修士	薬 科 学	31	306		
	薬 学		1,591		
	臨床薬学		76		
	健康生命科学	5	40		
	理 学	83	2,755		
	工 学	347	10,995		
	学 術	12	155		
	教授システム学	18	182		
教 職 値	多士(専門職)	26	73		

旧制学位授与数

			_,~		~~~	(件)
博	\pm	(医	学)	1,663

| 奨学生数 |

令和3年度実績(人)

	7 4		日本学生	各種団体	計			
	区分	一種	二種	給付	計	育英会	āΙ	
	学 部	1,882	1,412	898	4,192	119	4,311	
	博士前期・修士	459	41		500	20	520	
大学院	博士後期・博士	46	6		52	10	62	
	教 職 大 学 院	13	2		15	1	16	
	合 計	2,400	1,461	898	4,759	150	4,909	

^{※「}学部」は、特別支援教育特別専攻科及び養護教諭特別別科を含む。

国際交流協定

大学間交流協定

D/	5 1	現在
114		ガエ

地			協定締結	年
域	国名・地域名	大 学 名	学術交流学生	
	インド	インド工科大学ボンベイ校	2018	
	インドネシア	アイルランガ大学	2013 20	14
	インドネシア	インドネシア大学	2016 20	16
	インドネシア	ウダヤナ大学	2015	
	インドネシア	ガジャマダ大学	2013 20	13
	インドネシア	サムラトゥランギ大学	2008 20	
	インドネシア	スラバヤ工科大学	2008 20	
	インドネシア	センデラワシ大学	2008 20	
	インドネシア インドネシア	マタラム大学	2008 20	
	インドネシア	バンドン工科大学	2011 20	
	インドネシア	ブラウィジャヤ大学	2016 20	
	インドネシア	国立イスラミック大学スナン・アンベル・スラバヤ	2018 20	18
	カンボジア	王立プノンベン大学	2016 20	16
	タイ	カセサート大学	1994 20	12
	タイ	コンケン大学	2004 20	05
	タイ	チェンマイ大学	2018 20	18
	タイ	チュラロンコン大学	2019 20	19
	タイ	ブラパー大学	2017 20	
	タイ	マヒドン大学	2013 20	
	タイ	メーファールアン大学	2020 20:	120
	ネパール	ボカラ大学	2010	
	バングラデシュ	ダッカ大学	2000	116
	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学 フィリビン大学ディリマン校	2002 20	
	フィリピン	フィリビン大学ロスバニョス校	2015 20	
	ベトナム	ハノイ建設大学	2010 20	
	ベトナム	ハノイ国家大学科学大学	2007 20	008
	ベトナム	ハノイ国家大学外国語大学	2016 20	16
	ベトナム	フエ大学	2010 20	10
	ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学	2016 20	16
	ベトナム	ホーチミン工科大学	2010 20	10
	ベトナム	貿易大学	2016 20	16
アジア	マレーシア	マレーシアプトラ大学	2018 20	
ア	マレーシア	マレーシア理科大学	2012 20	
	ミャンマー	パテイン大学	2016 20	
	ミャンマーモンゴル	ヤンゴン工科大学 モンゴル生命科学大学	2018 20	
	ラオス	ラオス国立大学	2010 20	
	韓国	ソウル市立大学校	2011 20	_
	韓国	亜洲大学校	2011 20	
	韓国	釜山大学校	2012 20	12
	韓国	韓国科学技術院	2006 20	06
	韓国	韓南大学校	2016 20	16
	韓国	国立釜慶大学校	2011 20)11
	韓国	全北大学校	2012 20	_
	韓国	忠北大学校	2012 20	
	韓国	朝鮮大学校	2009 20	
	韓国	東亜大学校 岩材大学校	1999 20	005
	台湾	国立高雄大学	2016 20	
	台湾	国立清華大学	2015 20	
	台湾	台湾行政院農業委員会水産試験所	2020	
	台湾	長榮大学	2016 20	16
	台湾	南台科技大學	2008 20	
	中国	マカオ大学	2011 20	11
	中国	安徽大学	2015 20	15
	中国	華東政法大学	2011 20)11
	中国	吉林化工学院	2013 20	
	中国	吉林大学	2009 20	
	中国	桂林理工大学	2015 20	
	中国	広西医科大学	2018 20	
	中国中国	広西師範大学 山東大学	2005 20	
	中国	四川大学	2009 20	
1	中国	重慶大学	2009 20	
			1-01-120	
	中国	上海師範大学	2008 20	108

地		L 34 5	協定締結年
域	国名・地域名	大 学 名	学術交流学生交流
	中国	大連理工大学	2006 2006
	中国	東北師範大学	2014 2014
	中国	東北大学	2010 2010
	中国	同済大学	2007 2005
	中国	南開大学	2009
	中国	南京師範大学	2015 2015
	中国	南昌大学	2006 2020
	中国	武漢理工大学	2016 2016
	中国	福州大学至誠学院	2019 2019
	中国	北京工業大学	2013 2013
_	中国	北京理工大学	2019 2019
	中国	哈爾浜工業大学	2009 2009
-	トルコ	エーゲ大学	2000 2005
中近東			2015 2015
ж	トルコ	チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学	
	エジプト	アインシャムス大学	2019 2019
	エジプト	スエズ運河大学	2006
	エジプト	ファユム大学	2008 2013
ア	コンゴ民主共和国(ザイール)	ムブジマイ大学	2015 2015
アフリカ	ジブチ	ジブチ大学	2013
ź	スーダン	ハルツーム大学	2020 2020
		ムヒンビリ医科学大学	2016 2016
	タンザニア ブルキナファソ	ロガ第一ジョゼフ・キ・ゼルボ教授大学	2016 2016
	ルワンダ	ルワンダ国立大学	2014 2014
オ	オーストラリア	クイーンズランド工科大学	2014
オセアニア	オーストラリア	シドニー工科大学	2017 2017
テ	オーストラリア	ニューカッスル大学	2008 1986
	ニュージーランド	マッセー大学	2008
	アメリカ合衆国	アラスカ大学アンカレッジ校	2018
	アメリカ合衆国	ジョージア大学	2017
	アメリカ合衆国	テキサステック大学	1994
	アメリカ合衆国	テキサス大学サンアントニオ校	2010
	アメリカ合衆国	ノースカロライナ大学シャーロット校	1990
北米	アメリカ合衆国	バージニアコモンウェルス大学	1989
*	アメリカ合衆国	マサチューセッツ大学ボストン校	2016 2021
	アメリカ合衆国	モンタナ州立大学	1987
	アメリカ合衆国	モンタナ大学	1987 1987
	アメリカ合衆国	ライト州立大学	2017
	カナダ	アルバータ大学	2001
	カナダ	マギル大学	2016
中南アメリカ	メキシコ	ヌエボレオン州立自治大学	2017 2017
ח	アイルランド	ウォーターフォード工科大学	2018 2018
	アゼルバイジャン	バクー国立大学	2019 2019
	イギリス	ダラム大学	2015 1993
	イギリス	バーミンガム大学	1993 2018
	イギリス	リーズ大学	2006
	イタリア	イタリア国立パドヴァ大学	2018
	スペイン	ヴァレンシア大学	2014
			2014
	スペイン	サンティアゴ・デ・コンポステラ大学	
	スペイン	バリャドリッド大学	2018 2018
	スロベニア	マリボル大学	2016 2016
_	チェコ	西ボヘミア大学	2020 2020
∃	ドイツ	アーヘン工科大学	2020
ロッパ	ドイツ	ザールラント大学	2001 2002
パ	ドイツ	デュッセルドルフ・ハインリッヒ・ハイネ大学	2017 2017
	ドイツ	ベルリン技術経済大学	2018 2018
	ハンガリー	パーズマーニ・ベーテル・カトリック大学	2015
	フランス	エクス - マルセイユ大学	2016 2016
	フランス	ボルドー・モンテーニュ大学	2017 2017
	フランス	ボルドー工科大学	2006 2006
	フランス	ボルドー大学	2007 2007
	ボーランド	ルブリン工科大学	2015 2018
	ボーランド	ワルシャワ大学	2009 2009
	ラトビア	リガ工科大学	2018 2018
	ルーマニア	ブカレスト大学	2015 2015
		カザン連邦大学	2021
	ロシア		

部局間交流協定

R4.5.1 現在

部局名	国名·地域	大 学 名		帝結年
HP 777 144	H-H 20%	7 7 4	学術交流	学生交流
文学部	ドイツ	ボン大学・人文科学部	1997	
	デンマーク 中国	コペンハーゲン大学・人文学部 杭州師範大学・外国語学部	2018	
文学部、社会文化科学教育部	ケニア	プワニ大学・人文社会科学部	2015	2010
ATIN HAAIDITAGII	スイス	チューリッヒ大学・文学部東洋学科日本学部門	2016	2016
文学部、社会文化科学教育部、	台湾	淡江大学·外国語文学院	2013	2013
人文社会科学研究部	口冯		2013	2013
人文社会科学研究部、社会文 化科学教育部、法学部、法曹	台湾	輔仁大学法律学院	2018	2018
養成研究科		和二八子/公洋子/元	2010	2010
	韓国	江南大學校・教育学部	2002	2003
教育学部	ハンガ	エトヴェシュ・ロラーンド大学バール	2020	2020
法学部、社会文化科学教育部、	リー	ツィ・グスターヴ特別支援教育学部		
法曹養成研究科	台湾	東呉大学・法学院	2017	2017
医学部	中国	中国医学科学院	1983	
	中国	浙江大学・医学部	2010	
医学部、生命科学研究部、医	台湾	国立中央大学・生醫理工學院	2018	2018
学教育部	マルタ共和国	マルタ国立大学・分子医学研究所および バイオバンキングセンター	2019	2019
医学部、生命科学研究部、医		7113712127		
学教育部、ヒトレトロウイル	タイ	プリンスオブソンクラー大学・医学部	2019	2019
ス学共同研究センター				
医学部、生命科学研究部、保 健学教育部	韓国	高麗大学校・保健科学大学及び大学院 バイオ融合工学科	2007	2008
)廷子 () 月 印		温州医科大学	2008	
生命科学研究部	中国	南寧市看護学校	2020	
	台湾	国立雲林科技大学・設計学院	2019	
生命科学研究部、医学教育部、				
薬学教育部、生命資源研究·	中国	哈爾浜医科大学	1999	2014
支援センター	アメリカ	サンフランシスコ大学・看護大学院	2012	
生命科学研究部、保健学教育部	<u>アメリカ</u> タイ	サンフランンスコ大学・有護大学院 ナレスアン大学・医療保健学部	2012	
医学教育部、ヒロレトロウイ	71) レヘアン人子・囚僚床庭子叩	2010	
ルス学共同研究センター、国	タンザニア	聖フランシス医科大学	2017	2017
際先端医学研究機構				
	トルコ	アナドル大学	2017	
	スーダン	国立薬用植物・有用植物研究所	2012	
	アメリカ	ジョージア州立大学・炎症・免疫・感染研究センター	2013	
薬学部、生命科学研究部、薬	南アフリカ エジプト	ウェスタンケープ大学	2018	
学教育部 学教育部		エジプト フューチャー大学・薬学製薬学部 キンシャサ大学・薬学部	2019	
	フィリピ			
	5''	ミンダナオ州立大学イリガン工科校	2020	
	アメリカ	ニューメキシコ大学薬学部	2020	
	インドネシア	パジャジャラン大学薬学部	2020	
	トルコ	オルドゥ大学・薬学部・薬学教育部	2017	
薬学部、薬学教育部		キリス 7 アラリック大学・薬学部・薬学教育部	2017	
	カンボジア		2016	
	韓国マレーシア	高神大学校・一般大学院、保健福祉大学 ベトロナス工科大学	2011	
理学部、工学部、先端科学研	())	クレルモン・オーベルニュ大学	2012	2012
究部、自然科学教育部		サンテティエンヌ国立高等鉱業学校	2012	
	フランス	クレルモン・オーベルニュ大学・物理工		
		学院、理工学科		2021
	チェコ	パルドゥビツェ大学	2015	2015
	キルギス	キルギス・トルコマナス大学工学部、理	2016	2016
理学部、工学部、自然科学教育部	ベトナル	学部、自然・応用科学研究所 ベトナム自然資源環境省地質科学鉱物資源研究所	2007	
	(1.) 1	、1・7 四日深見原株売目地見刊于風物見刷制九川		2017
		ロストック大学・数学及び自然科学部 物理学分野	2017	
	ドイツ フランス	ロストック大学・数学及び自然科学部 物理学分野 トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部		
	ドイツ		2018	2018
理学部、先端科学研究部、自	ドイツ フランス	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部	2018	2018
	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学数学・コンピュータ学部 ジュネープ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部	2018 2013 2019 2018	2018 2013 2018
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国	トゥール- ズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部	2018 2013 2019 2018 2014	2018 2013 2018 2014
理学部、先端科学研究部、自	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学・マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory	2018 2013 2019 2018 2014 2014	2018 2013 2018 2014
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学・ロンブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部	2018 2013 2019 2018 2014 2014 2006	2018 2013 2018 2014 2014
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学	2018 2013 2019 2018 2014 2014 2006 2017	2018 2013 2018 2014 2014 2017
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・エ学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学	2018 2019 2018 2014 2014 2006 2017 2018	2018 2013 2018 2014 2014 2017 2018
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部	2018 2019 2019 2018 2014 2014 2006 2017 2018 2017	2018 2013 2018 2014 2014 2017 2018 2017
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス インド	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学・マンプルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバエ科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学	2018 2019 2019 2014 2014 2006 2017 2018 2017 2020	2018 2014 2014 2014 2017 2018 2017 2020
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部	2018 2019 2019 2018 2014 2014 2006 2017 2018 2017	2018 2013 2014 2014 2017 2017 2018 2017 2020 2014
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス インド	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キングモンクット工科大学ラックラバン校工学部	2018 2019 2018 2014 2014 2006 2017 2018 2017 2018 2017 2020 2014	2018 2013 2014 2014 2017 2018 2017 2020 2014 2018
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス インド	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバエ科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キンダモンクット工科大学 オンインドストリーストリーストリーストリーストリーストリーストリーストリーストリーストリー	2018 2019 2019 2014 2014 2006 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2008 2017	2018 2013 2014 2014 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2008 2017
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス インド タイ ベトナム ラオス 韓国	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 アイリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キングモンクット工科大学ラックラバン校工学部 タマサート大学・理工学部 ダナン工科大学 スババボン大学工学部 韓国海洋大学校・工科大学	2018 2013 2019 2018 2014 2014 2006 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2008 2017 2011	2018 2013 2014 2014 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2008 2017 2011
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス インド インドネシア タイ ベトナム ラオス	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キン有モンクット工科大学ラックラバン校工学部 タマサート大学・理工学部 ダナン工科大学 タマサート大学・理工学部 ダナン工科大学 カーパ・ボン大学エ学部 韓国海洋大学校・工科大学 大同大学・電気情報工学部	2018 2013 2019 2018 2014 2014 2006 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2008 2017 2011 2017	2018 2013 2014 2014 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2008 2017 2011
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部理学部、自然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス インド インドネシア タイ ベトナム ラオス 韓国 台湾	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CFM/2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キングモンクット工科大学 タマサート大学・理工学部 ダナン工科大学 スパイポン大学工学部 韓国海洋大学校・工科大学 大同大学・電気情報工学部 広西大学・土木建築工程学院、化学化工学院	2018 2019 2019 2014 2014 2006 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2017 2020 2014 2018 2017 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019	2018 2013 2014 2014 2014 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2008 2017 2011 2017
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部 理学部、自然科学教育部 工学部、生然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル スイス ドイツ 韓国 フランス インド タイ ベトナム ラオス 韓国	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネープ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバエ科大学 マンガコールエ科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キンダモンクットエ科大学スラバヤ国立大学・モングモンクットエ科大学 タマサート大学・理工学部 タマサート大学・理工学部 タマサート大学・理工学部 タインエ科大学 スパノボン大学工学部 韓国海洋大学校・工科大学 大同大学・電気情報工学部 広西大学・土オ建築工程学院、化学化工学院 北京大学工学院	2018 2019 2019 2014 2014 2006 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2017 2020 2014 2018 2017 2011 2017 2011 2017 2011 2017	2018 2013 2014 2014 2014 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2008 2017 2011 2017
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部 理学部、自然科学教育部 工学部、生然科学教育部	ドイツ フランス モンイス ド韓国 フランス インドネシア インドネシア タ イ イラ韓自湾 中国	トゥールーズ第三ボールサバティ工大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CFM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キングモンクット工科大学のラバン快工学部 タマサート大学・理工学部 タオンエ科大学 スパバボン大学工学部 韓国海洋大学校・工科大学 大同大学・電気情報工学部 協西大学・土木建築工程学院 西安理工大学	2018 2019 2019 2018 2014 2016 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2008 2017 2011 2017 2011 2017 2017 2017 2020 2014	2018 2013 2014 2014 2017 2018 2017 2020 2020 2017 2011 2017 2010 2017 2017
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部 理学部、自然科学教育部 工学部、生然科学教育部	ドイツ フランス スイス ドイツ 韓国 フランス インド インドネシア インドネシア タイ ベトナム ラオ国 南南 アメリカ	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRMV2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 マンガロール工科大学 マンガロール工科大学 オンドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キングモンクット工科大学ラックラバン校工学部 ダオン工科大学 タマサート大学・理工学部 ダオンエ科大学 ストボン学・大同大学・電気情報工学部 は西大学・電気情報工学部 は西大学・土木建築工程学院、化学化工学院 北京大学工学院 西安理工大学 ジョージア工科大学・工学部	2018 2019 2019 2018 2014 2014 2006 2017 2020 2018 2017 2020 2018 2018 2017 2018 2017 2017 2017 2017 2017 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019	2018 2013 2014 2014 2017 2018 2017 2020 2014 2017 2020 2014 2018 2018 2017 2011 2017 2018 2018 2017 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部 理学部、自然科学教育部 工学部、生然科学教育部	ドイツ フランス スイス ドイツ 韓国 フランス インド ネシア タイ トナム ラシス インドネシア タイトナム ラオ国 音 湾 中国 アプラジル	トゥールーズ第三ボールサバティ工大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キングモンタルエ科大学ラックラバン校工学部 タマサート大学・理工学部 ダナン工科大学 スパイボン大学工学部 韓国海洋大学校・工科大学 大同大学・電気情報工学部 広西大学・土木建築工程学院 広西大学・土木建築工程学院 加速・土木建築工程学院 加速・土木建築工程学院 地方とアクア工科大学・工学部 航空技術大学	2018 2019 2018 2019 2018 2014 2006 2017 2018 2017 2020 2014 2014 2014 2014 2018 2017 2011 2017 2017 2017 2017 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019	2018 2013 2014 2014 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2017 2011 2017 2008 2017 2008 2017 2008 2017 2008 2017
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部 理学部、自然科学教育部 工学部、生然科学教育部	ドイツ フランス スイス ドイツ 韓国 フランス インド インドネシア インドネシア タイ ベトナム ラオ国 南南 アメリカ	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバエ科大学 マンガロールエ科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キングモンクットエ科大学ラックラバン校工学部 タマサート大学・理工学部 タマサート大学・理工学部 タスリンエ科大学 スパノボン大学工学部 韓国海洋大学校・工科大学 大同大学・電気情報工学部 た西大学・土木建築工程学院、化学化工学院 北京大学工学院 西安理工大学 ジョージアエ科大学・工学部 航空技術大学 ブレシア大学	2018 2019 2019 2018 2014 2014 2006 2017 2018 2017 2020 2014 2018 2017 2017 2017 2017 2020 2017 2017 2017	2018 2018 2014 2014 2017 2017 2020 2014 2017 2020 2018 2018 2017 2018 2018 2018 2018 2018 2018 2018 2018
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部 理学部、自然科学教育部 工学部、生然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル モスイス ドイツ 韓国 フランス インド インドネシア タイ ドカオス 韓国 ラシス インドネシア タイ ドカオス 韓国 ラウス インドネシア タイ アラカオス マラウオ マラウオ マラウオ マラウオ マラウオ マラ マラ マ フィ マ フィ マ フィ マ フィ マ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ	トゥールーズ第三ボールサバティ工大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバ工科大学 マンガロール工科大学 マンガロール工科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キングモンタルエ科大学ラックラバン校工学部 タマサート大学・理工学部 ダナン工科大学 スパイボン大学工学部 韓国海洋大学校・工科大学 大同大学・電気情報工学部 広西大学・土木建築工程学院 広西大学・土木建築工程学院 加速・土木建築工程学院 加速・土木建築工程学院 地方とアクア工科大学・工学部 航空技術大学	2018 2019 2019 2019 2018 2014 2016 2017 2018 2017 2020 2014 2017 2017 2007 2018 2017 2017 2019 2017 2020 2017 2020 2017 2017 2017 2017	2018 2018 2013 2014 2014 2017 2017 2020 2018 2017 2011 2017 2011 2017 2018 2018 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部 理学部、自然科学教育部 工学部、生然科学教育部	ドイツ フランス スイス ドイツ 韓国 フランス インド ネシア タイ トナム ラシス インドネシア タイトナム ラオ国 音 湾 中国 アプラジル	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CPM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバエ科大学 マンガロールエ科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キングモンクットエ科大学ラックラバン校工学部 タマサート大学・理工学部 タインエ科大学 スパノボン大学工学部 韓国海洋大学校・工科大学 大同大学・電気情報工学部 がた大学工学学・電気情報工学部 北京大学工学学・主大建築工程学院・化学化工学院 北京大学工学学・ ボス大学工学学・ ブレシア大学 ビュルツブルグ大学・化学薬学部 フライベルクエ科大学・機械・加工・エ ネルギー工学科・機械・加工・エ ネルギー工学科・標域・加工・エ	2018 2019 2019 2019 2018 2014 2014 2016 2017 2020 2014 2018 2017 2017 2017 2007 2018 2019 2017 2017 2020 2019 2019 2019 2019 2019 2019 2019	2018 2018 2018 2018 2014 2017 2020 2018 2018 2018 2017 2011 2017 2020 2020 2020 2020 2020
理学部、先端科学研究部、自然科学教育部 理学部、自然科学教育部 工学部、生然科学教育部	ドイツ フランス モンゴル モスイス ドイツ 韓国 フランス インド インドネシア タイ ドカオス 韓国 ラシス インドネシア タイ ドカオス 韓国 ラウス インドネシア タイ アラカオス マラウオ マラウオ マラウオ マラウオ マラウオ マラ マラ マ フィ マ フィ マ フィ マ フィ マ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ フィ	トゥールーズ第三ボールサバティエ大学・理工学部 モンゴル国立大学教学・コンピュータ学部 ジュネーブ大学・理学部 フィリップ大学マールブルク・化学部 慶北大学校・自然科学学部、師範学部 ロレーヌ大学・CRM2 Laboratory アナマライ大学・工学部 アルバエ科大学 マンガロールエ科大学 インドネシア・イスラム大学 産業技術学部 スラバヤ国立大学 キンダキンクット工科大学 オンダート大学・理工学部 ダインエ科大学 スパノボン大学工学部 韓国海洋大学校・工科大学 大同大学・電気情報工学部 広西大学・士大建築工程学院、化学化工学院 北京大学工学院 西安ヨージア工科大学・工学部 航空技術大学 ブレシルツブルグ大学・化学薬学部 フライベルク工科大学・機械・加工・エ	2018 2019 2019 2019 2018 2014 2016 2017 2018 2017 2020 2014 2017 2017 2007 2018 2017 2017 2019 2017 2020 2017 2020 2017 2017 2017 2017	2018 2018 2018 2018 2014 2017 2020 2018 2018 2018 2018 2017 2011 2017 2017 2008 2020 203 204 2017 2020 203 204 2018 2018 2018 2018 2018 2018 2018 2018

			協定締結年		
部 局 名	国名·地域	大 学 名		学生交流	
		カルナタカ国立工科大学	2009		
	インド	マニパール大学	2009		
	インドネシア	テレコム大学・電気工学部、大学院	2014		
		ハサヌディン大学・工学部		2015	
	フィリピン	デ・ラ・サール大学工学部 マンダレー工科大学	2011		
	モンゴル	モンゴル科学技術大学	2015		
	C2 370	瀋陽建築大学・土木工学院、都市環境工			
	中国	学院、交通工学院及び大学院	2010		
		浙江工商大学・観光・都市管理学部	2016		
工学部、自然科学教育部	台湾	国立高雄第一科技大学工学院、電機資訊学院 国立台北科技大学・機電学院	2009	2009	
		チャンクルカラテキン大学工学部	2014		
	トルコ	ガジ大学・工学部、大学院自然・応用科学研究科	2015		
		ルール大学ボーフム社会環境工学部	2014	2014	
	ドイツ	アーヘン工科大学・資源材料工学部門、		2015	
		物理冶金および金属物理研究所 アーヘン工科大学・土木工学部		2021	
	オランダ	トゥウェンテ大学・工学技術部	2015	LOL.	
		オストラバ工科大学及びチェコ科学アカ	2009	2010	
	チェコ	デミー地球科学研究所		2010	
工类如 点处到类型数本如 生生		チェコ科学アカデミー物理研究所	2015		
工学部、自然科学研教育部、先進 マグネシウム国際研究センター	韓国	韓国生産技術研究院融合工程新素材研究 実用化グループ	2003		
() (IV)) PILIPANIO CO).	5/	モンクット王トンブリー工科大学・エネルギー環境大学院	2016	2016	
	タイ	シラパコーン大学・産業工学部	2018	2018	
	バングラデシュ	ノアカーリ科学工科大学・工学及び技術部、理学部	2018	2018	
	ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー 海洋地質地球物理学研究所	2017		
先端科学研究部、自然科学教育部		ベトナム国立自然博物館	2012		
フレールロママチテルリフレロル、ロ巛代子叙育部		延世大学校·工科大学 中国科学院·蘭州化学物理研究所·北西	2013		
	中国	植物資源化学国家重点実験室	2018	2018	
	カナダ	カルガリー大学・工学部	2016	2016	
	チェコ	カレル大学・数学物理科	2019		
	ドイツ	カールスルーエ工科大学	2019		
先端科学研究部、自然科学教	益田	漢陽大学校・海洋科学融合工学科及び BK 教育研究センター	2021	2021	
育部、くまもと水循環・減災 研究教育センター	韓国	高麗大学校・工学部、建築環境工学未来融合研究所	2022	2022	
MINORA CO N	オーストラリア	クイーンズ大学	2014	2022	
先端科学研究部	ドイツ	ライプニッツ応用地球科学研究所	2013		
元5.而行子(打九司)	キルギス	キルギス共和国国立科学アカデミー化学	2014		
I DISTANTA A DISTANTA	17017	及び化学工学技術研究所	2017		
先端科学研究部、先端科学研究部附属 生物環境農学国際研究センター	フランス	コート・ダジュール大学及びソフィア農業技術研究所	2021		
工物系列及子目が耐力にファ	イギリス	バーミンガム大学・金属材料学部		2018	
自然科学教育部	ボーランド	AGH科学技術大学物質科学部	2010	2010	
	チェコ	プラハ化学技術大学	2010	2010	
	インド	インド科学大学院航空宇宙工学科	2017		
産業ナノマテリアル研究所	イギリス	グラスゴー大学・工学部	2014		
充業士 / フニリフリ II 東京 生機利	オーストラリア	クイーンズランド大学・工学・建築・情報工学学部 ノボシビルスク州立工科大学航空機工学	2018		
産業ナノマテリアル研究所、先端科 学研究部、自然科学教育部、工学部	ロシア	おおよび機械工学部	2008		
	中国	上海交通大学国際関係公共事務学院	2013	2013	
熊本創生推進機構	オーストリア	ウィーン大学・言語文化学部	2016		
		マレーシア工科大学・環境維持・水安全保障センター	2018		
/ ± 4 1 1 1/45 7 1 1/4/17 17 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	マレーシア	ケバングサン マレーシア国民大学・気 候変動研究所・地球観測センター	2019		
くまもと水循環・減災研究教 育センター		ウィリアム アンド メアリー大学・バー			
	アメリカ	ジニア海洋科学研究所	2019		
	ベトナム	ベトナム国立気象水文予報センター	2021		
<u> </u>	チェコ	カレル大学・数学物理科	2018		
		韓国材料科学研究所軽金属部門	2014		
	韓国	ソウル大学・マグネシウム技術革新センター 浦項工科大学校 先端航空宇宙材料センター	2015 2020		
		国立台湾大学・材料工学部門	2020		
	台湾	国立成功大学・マイクロ・ナノ科学技術センター	2019		
先進マグネシウム国際研究センター					
先進マグネシウム国際研究センター	オーストラリア	クイーンズランド大学・材料工学科	2013		
先進マグネシウム国際研究センター	オーストラリア ロシア	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所	2013 2015		
先進マグネシウム国際研究センター		クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンクット王トンブリー工科大学・キングウ			
先進マグネシウム国際研究センター	ロシア タイ	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンクット王トンブリー工科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター	2015 2019		
先進マグネシウム国際研究センター	ロシア タイ アメリカ	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンクット王トンブリーエ科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会	2015 2019 2020		
先進マグネシウム国際研究センター	ロシア タイ	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンクット王トンブリー工科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター	2015 2019 2020 2013		
先進マグネシウム国際研究センター	ロシア タイ アメリカ 韓国	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンクット王トンブリーエ科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルディングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院	2015 2019 2020 2013 2012		
先進マグネシウム国際研究センター	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンクットモトンブリーエ科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部	2015 2019 2020 2013 2012 2018		
先進マグネシウム国際研究センター	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンタットモトンブリーエ科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学の研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010		
	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンタット王トンブリーエ科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルテイングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア	2015 2019 2020 2013 2012 2018		
	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンタットモトンブリーエ科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学の研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010		
	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 エンタット王トンブリーエ科大学 キングウ エルド溶接研究・コンサルテイングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物科学部 コーストラリア国立大学オーストラリア フェノミクスファシリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004		
	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンタット王トンブリーエ科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノミクスファシリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ イオロジープログラム	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013		
	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア アメリカ	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 センタットモトンブリーエリ大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリタ大学・評議員会 韓国生命工学の学学・評議員会 韓国生命工学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノミクスファシリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ イオロジー 医学研究評議会	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013 2011		
	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア アメリカ イギリス フランス	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンタットモトンブリー工科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 輸里生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノミクスファシリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ イオロジーブはク	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013 2011 2015		
	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア アメリカ イギリス フランス スペイン	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 ウエルド溶接研究・コンサルテイングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノミクスファシリティ ジャクソン研究所 フェリン研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013 2011 2015 2018		
生命資源研究・支援センター	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア アメリカ イギリス フランス フランス ウルグアイ	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 エンタット王トンブリーエ科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノミクスファシリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ イオロジーブログラム 医学研究評議会 バスツール研究所 スペイン国立研究所 パスツール研究所 パスツール研究所	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013 2011 2015 2018 2017		
生命資源研究・支援センター	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア アメリカ イギリス フランス スペイン ウルグア・シンガボール	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 センタットモングリーエ科大学・ネングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品株定研究院 国家実験研究院・国家実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノシのスアテンリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ インリーン・フログラム 医学研究開議会 バスツール研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 バスツール研究所 スペインコ立大学 がん科学研究所	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013 2011 2015 2018 2017 2017		
生命資源研究・支援センター	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア アメリカ イギリス フランス スペイン ウンルグアイシ マレーシア	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 エンタットモトンブリー工科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 国家実験研究院・国家実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノシのスアァシリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ イフシープログラム 医学研究課議会 バスツール研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 マレーシアサラワク大学	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013 2011 2015 2018 2017 2017	2010	
生命資源研究・支援センター 国際先端医学研究機構 国際先端医学研究機構	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア アメリカ イギリス フランス スペイン ウンルグアイシ シンガボール マレーシア スイス	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 センタットモトングリーエリ大学・ネングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノシのスアッシリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ イオロシデ加の 医学研究評議会 バスツール研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 マレーシアサラワク大学 ローザンヌ大学・生物・医学部 生物校	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013 2011 2015 2018 2017 2017 2017 2018	2018	
生命資源研究・支援センター 国際先端医学研究機構 国際先端医学研究機構 国際先端科学技術研究機構、理学部、 自然科学教育部、先端科学研究部	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア アメリカ イギリス フランス スペイン ウル・グアイト シンガボール マンイス ネイス 韓国	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 モンタットモングリー工科大学・キングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物とター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノシラスファシリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ イオロ研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ イオンプープラム 医学研究評議会 バスツール研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立大学 がん科学研究所 マレーシアサラワク大学 ローザンヌ大学・生物・医学部 生物校 延世大学校・健康科学大学、医工学研究所	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013 2011 2015 2018 2017 2017 2017 2018 2018	2018	
生命資源研究・支援センター 国際先端医学研究機構 国際先端解学技術研究機構 理学部 自然科学技術研究機構 理学部 自然科学技術研究機構 大端科学研究部	ロシア タイ アメリカ 韓国 中国 台湾 オーストラリア アメリカ イギリス フランス スペイン ウルグアイ シンガボール マレーシア スイス 韓国 アメリカ	クイーンズランド大学・材料工学科 州立トリアッチ大学先進技術研究所 センタットモトングリーエリ大学・ネングウ エルド溶接研究・コンサルティングセンター フロリダ大学・評議員会 韓国生命工学研究院ラボラトリーアニマ ルリソースセンター 中国食品医薬品検定研究院 上海交通大学・医学院実験動物科学部 国家実験研究院・国家実験動物センター オーストラリア国立大学オーストラリア フェノシのスアッシリティ ジャクソン研究所 カリフォルニア大学デービス校マウスバ イオロシデ加の 医学研究評議会 バスツール研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 スペイン国立研究所 マレーシアサラワク大学 ローザンヌ大学・生物・医学部 生物校	2015 2019 2020 2013 2012 2018 2010 2014 2004 2013 2011 2015 2018 2017 2017 2017 2018	2018	

※部局間交流協定校 147機関(41か国1地域)

教職員の海外渡航者数及び外国人研究者等受入数

令和3年度実績(人)

区分	国名	渡航者数	受入数
	インド	0	1
	インドネシア	0	19
	カザフスタン	0	0
	カンボジア	0	0
	シンガポール	0	0
	スリランカ	0	0
	タイ	1	0
	ネパール	0	1
	パキスタン	0	1
アジア	バングラデシュ	0	5
	フィリビン	0	2
	ベトナム	0	4
	マレーシア	0	0
	ミャンマー	0	0
	モンゴル	0	20
	韓国	1	16
	台湾	0	0
	中国	0	38
	小青十	2	107
	アラブ首長国連邦	0	0
1 >==	イラン	0	0
中近東	トルコ	0	0
	小計	0	0
	エジプト	0	1
	エチオピア	0	0
	ザンビア	0	1
	スーダン	0	0
アフリカ	タンザニア	0	0
	南アフリカ	0	2
	モロッコ	1	0
	小青十	1	4
	オーストラリア	0	4
オセアニア	ニュージーランド	0	2
	小計	0	6
	アメリカ	6	14
北アメリカ	カナダ	1	1
	小青十	7	15
	アルゼンチン	0	0
	コスタリカ	0	0
	ブラジル	1	0
中南アメリカ	ペルー	0	0
	メキシコ	0	0
	小計	1	0

区分	国 名	渡航者数	受入数
	アイスランド	1	0
	イギリス	0	2
	イタリア	0	0
	ウクライナ	0	0
	オーストリア	0	0
	オランダ	0	0
	キプロス	0	0
	ギリシャ	1	1
	キルギス	0	0
	クロアチア	0	0
	スイス	2	2
	スウェーデン	0	0
	スペイン	0	0
	スロバキア	0	0
	スロベニア	0	0
ヨーロッパ	チェコ	0	1
	デンマーク	0	0
	ドイツ	2	5
	ノルウェー	0	0
	ハンガリー	0	0
	フィンランド	0	0
	フランス	0	19
	ベルギー	0	0
	ポーランド	0	0
	ポルトガル	0	0
	マルタ	0	0
	ラトビア	0	0
	ルーマニア	0	0
	ロシア	0	1
	小計	6	31
	合 計	17	163

本学学生の海外留学状況

令和3年度実績(人)

Ē	国・地域	大 学 名	留学者数 ※1	海外語学 セミナー 参加者数 ※ 2	F度実績(人) サマー・ スプリング プログラム 参加者数 ※2
	台湾	長榮大学	_	_	3
アジア	韓国	釜山大学	_	_	2
	中国	上海師範大学	_	_	2
		āt .	0	0	8
中近東	-	-	_	-	_
アフリカ		-	_	_	_
オセアニア		-	_	_	_
	カナダ	カルガリー大学 (自然科学教育部との部局間交流協定校)	_	1	_
北米	77.74	アルバータ大学	1	1	_
北木	アメリカ	モンタナ州立大学	_	23	_
		計	1	25	0
中南アメリカ	·	_	_	_	_
	イギリス	リーズ大学	2	_	_
	アイルランド	ウォーターフォード工科大学	2	_	_
		ボルドー・モンテーニュ大学	1	_	_
ヨーロッパ	フランス	グルノーブル・アルブ大学	1	_	_
J-09/1		クレルモンオーベルニュ大学	1	_	_
	デンマーク	コペンハーゲン大学	2	_	_
	ドイツ	アーヘン工科大学	1	-	_
		計	10	0	0
		合 計	11	25	8

^{※1} 学術交流協定または学生交流協定を締結している大学への3ヶ月以上1年以内の派遣※2 新型コロナウイルスの影響により、プログラムは全てオンラインでの実施

海外語学セミナー等

海外語学セミナー、サマー・スプリングプログラム参加数の推移

(人)

围	名・地域	大学名	実施期間	平成10年度~ 平成28年度 まで	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度※	令和 3年度※	平成10年度 からの累計
	カナダ	アルバータ大学	夏期 4 週間	377	24	14	13	-	1	429
	カナダ	カルガリー大学	春期 4 週間	0	-	12	6	1	1	20
	アメリカ	モンタナ州立大学	夏期2~3週間	14	8	13	11	_	23	69
	イギリス	リーズ大学	夏期/春期 4 週間	17	18	8	6	2	_	51
	オーストラリア	ニューカッスル大学	春期2~3週間	158	9	8	_	_	_	175
	ニュージーランド	マッセー大学	春期2~3週間	14	9	7	13	-	_	43
	ラトビア	リガエ科大学	夏期 2 週間	0	_	14	10	_	_	24
	フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	4週間※随時	21	10	-	_	_	_	31
	フィリビン	デ・ラ・サール大学	春期 1 週間	0	-	4	_	-	_	4
	タイ	ブラパー大学	夏期 1 週間	0	_	1	_	_	_	1
	タイ	チュラロンコン大学	夏期 2 週間	0	_	_	1	_	_	1
	タイ	チェンマイ大学	夏期 2 週間	0	-	-	_	1	_	1
学術または	ベトナム	貿易大学	夏期 3 週間	0	-	-	1	1	1	3
学生交流	韓国	東亜大学校	夏期 2 週間	65	2	2	1	_	_	70
協定校	韓国	培材大学校	夏期 2 週間	23	_	-	_	_	_	23
	韓国	朝鮮大学校	夏期/春季2~3週間	6	-	_	_	_	_	6
	韓国	ソウル市立大学校	夏期 3 週間	10	-	_	_	_	_	10
	韓国	国立釜慶大学校	夏期 1 ~ 2 週間	5	2	-	2	_	_	9
	韓国	釜山大学校	夏期 1 週間	0	_	_	1	_	2	3
	中国	上海師範大学	夏期2~4週間	44	-	_	_	-	2	46
	中国	華東政法学院	夏期 4 週間	12	-	-	_	_	_	12
	中国	同済大学	夏期 2 週間	6	_	_	1	_	_	7
	中国	安徽大学	夏期 1 週間	0	1	2	8	-	_	11
	中国	哈爾浜工業大学	夏期 4 週間	0	-	1	_	_	_	1
	中国	杭州師範大学	春期 2 週間	0	-	1	_	_	_	1
	台湾	南台科技大学	夏期 2 週間	29	2	3	_	-	_	34
	台湾	長榮大学	夏期 1 週間	0	2	-	3	-	3	8
	ドイツ	フライブルク大学	夏期/春期 4 週間	260	1	5	1	8	1	276
	アメリカ	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	夏期 4 週間	48	_	_	_	_	_	48
協定校外	アメリカ	ハワイ大学マノア校	春期3週間	6	_	_	_	_	_	6
	英国	バンガー大学	夏期 3 週間	0	_	_	6	_	_	6
	フランス	Campus France	夏期/春期4週間	1	_	1	_			2
			合 計	1116	88	96	84	13	34	1431

[※]新型コロナウイルスの影響により、プログラムは全てオンラインでの実施

国際奨学事業受給者

※本学学生の海外での学習・研究活動への参加を支援するために平成17年度からはじまった本学独自の奨学金制度。

_{令和3年度実績(件)} 活動内容別 部局別

	部 局 名	受給者数
	文学部	18
	教育学部	5
	法学部	2
学部	理学部	5
- J -II)	医学部	0
	薬学部	0
	工学部	5
	計	35
	教育学研究科	0
	社会文化科学教育部	0
	自然科学教育部	17
大学院	医学教育部	1
	保健学教育部	0
	薬学教育部	3
	計	21
	수 計	56

※新型コロナウイルスの影響により生じる各種費用(PCR検査費用等)支援を含む

令和3年度実績(件)

	1	
内 容	件	数
国際学会発表		16
国際的な調査活動		2
国際インターンシップ		2
国際交流協定校での目標を定めた学習		1
本学の海外語学セミナー等		26
コロナ禍における学生支援		1
その他、国際的な学習・研究活動		8
合 計		56

出身地域別・出身国別外国人留学生数

R4.5.1 現在 (人)

						学	部										大学	卢院						.5.1 52	
	区分	学部	学生	研3	 完生	科目等	履修生	特別聴	講学生	i i	t	大学院	完学生	研3	 克生	科目等	履修生	特別聴	講学生	特別研	究学生	i	†	日本語 研修生	計
			うち国費		うち国費		うち国費		うち国費		うち国費		うち国費		うち国費		うち国費		うち国費		うち国費		うち国費	WIIISE	
	インド	1	1							1	1	4	2									4	2		5
	インドネシア									0	0	27	20	1	1							28	21		28
	タイ									0	0	14	6							3		17	6	1	18
	バングラデシュ									0	0	16	10									16	10		16
	ベトナム							2		2	0	3	3									3	3		5
ア.	マレーシア	10								10	0	2	2									2	2		12
アジア	ミャンマー									0	0	9	3									9	3		9
	モンゴル	6								6	0	5										5	0		11
	ラオス									0	0	1										1	0		1
	台 湾							1		1	0											0	0		1
	大韓民国	6						5		11	0	2		1								3	0		14
	中華人民共和国	16		8				7		31	0	171	1	21						5		197	1		228
	エジプト									0	0	11	7									11	7		11
	エチオピア									0	0	1										1	0		1
	ガーナ									0	0	6	4									6	4		6
	ケニア									0	0	3	3									3	3		3
	ザンビア									0	0	1										1	0		1
アフリカ	ジブチ									0	0	1										1	0		1
カ	スーダン									0	0	2	2									2	2		2
	タンザニア									0	0	3	3							1		4	3		4
	ナイジェリア									0	0	1										1	0		1
	マラウイ									0	0	1										1	0		1
	モーリタニア									0	0	2	2									2	2		2
	モロッコ									0	0									1		1	0		1
中南米	ドミニカ									0	0	1										1	0		1
*	メキシコ									0	0	1										1	0		1
	イギリス							1		1	0											0	0		1
	オーストリア									0	0	1	1									1	1		1
	カザフスタン									0	0	1	1									1	1		1
3-0	スペイン									0	0											0	0	1	1
ッパ	チェコ							1	1	1	1											0	0		1
	ドイツ連邦共和国							1		1	0	1	1					2				3	1		4
	フランス							2		2	0							1		2		3	0		5
	マルタ									0	0	1										1	0		1
	アフガニスタン									0	0	7										7	0		7
中東	イラン									0	0	4	1									4	1		4
果	オマーン									0	0	1										1	0		1
7	トルコ									0	0	1										1	0		1
オギアニア	ヴァヌアツ									0	0	1										1	0		1
	合計 (39 カ国)	39	9	8	3	0		20	0	67	7	30	6	2	3	C)	3	3	1:	2	34	4	2	413

生涯学習

新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン講座を中心に開催しました(授業開放は中止)。

公開講座 令和3年度

講 座 名	開催期間	募集人数	受講者数	受講対象者
健幸薬学への誘い ~大衆薬・サブリメント編~	5/29~7/10	30	10	高校生以上
健幸薬学の実践 ~医療用医薬品(病院・薬局でもらう薬)編~	10/2~11/13	20	7	高校生以上
経済学講座 ~社会における経済学の役割について~	8/19~9/2	10	2	一般社会人
企業行動の経営理論	9/9~9/24	10	3	一般社会人
コロナ禍が続く今だからこそ、自律神経について深く知ろう	7/27 ~ 8/24	10	4	一般社会人
企業活動と紛争解決 ~危機管理システムの構築に向けて~	9/3 ~ 11/5	15	18	高校生以上
社会人向けデータサイエンス入門コース・基礎編 / 全 6 講座	10/9 ~ 11/13	20	3	データサイエンスの基礎を学びたい方、エンジニア、経理・人事・営業等文系実務者等
教育デザイン・ワークショップ入門編	9/11 ~ 11/3	200	155	企業内教育、医療人材育成、学校教育など、教育を企画・デザイン・運営されている方
教育デザイン・ワークショップ応用編	12/17 ~ 1/22	120	84	企業内教育、医療人材育成、学校教育など、教育を企画・デザイン・運営されている方

知のフロンティア講座

令和3年度

タイトル	受講者数	開催日
「熊大発! カラダの引き締めかた教えます」 ~熊本大学 知のフロンティア~	30	7月9日
「熊大発! カラダの引き締めかた教えます」 ~熊本大学 知のフロンティア~	20	11月24日
「熊大発! カラダの引き締めかた教えます」 ~熊本大学 知のフロンティア~	30	11月25日
「歳を重ねても 元気に暮らす方法、教えます」 ~熊本大学 知のフロンティア~	130	1月21日
「からだ引き締め元気教室」 ~熊本大学 知のフロンティア~	13名×9回	1月7日~3月25日

ボランティア活動

令和3年度

学部・研究科等名	活動名	活動期間	活動者数(人)
*************************************	フレンドシップ事業	R3.4.1 ~ R4.3.31	78
教育学部	ュア・フレンド事業	R3.4.1 ~ R4.3.31	129
工学部	熊本大学学生災害復旧支援団体「熊助組」(工学部公認サークル)	R3.4.1 ~ R4.3.31	21
熊本創生推進機構	令和2年7月豪雨災害に伴う被災地支援	R3.4.5 ~ R3.12.21	55
RR(本居)工1社Æ(及情)	地域活性化ボランティア	R3.4.5 ~ R3.12.26	87

寄附講座等

奨学を目的とする民間等からの寄附により設置・運営し、教育研究の充実をはかります。

R4.4.1 現在

部局名	寄附講座名称	設置期間	寄降	附者
大学院生命科学研究部	画像診断解析学寄附講座	平成15年10月1日~ 令和7年3月31日	株式会社フィリップス・ジャパン	
大学院生命科学研究部	免疫・アレルギー・血管病 態学寄附講座	平成23年4月1日~ 令和5年3月31日	医療法人 信岡会 菊池中央病院 い	療法人 城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院 しはら皮膚外科クリニック 野薬品工業株式会社
大学院生命科学研究部	糖尿病·代謝病態解析学寄 附講座	平成31年4月 1日~ 令和6年3月31日	テルモ株式会社 医療法人社団三森会 三森循環器科・呼吸器科病院 小野薬品工業株式会社 一般社団法人菊池郡市医師会 菊池郡市医師会立病院 医療法人 杉村会 杉村病院	特定医療法人 成仁会 くまもと成仁病院 特定医療法人 谷田会 谷田病院 医療法人 祐基会 帯山中央病院 社会医療法人愛育会 福田病院
大学院生命科学研究部	医薬品包装学寄附講座	令和3年5月1日~ 令和8年4月30日	株式会社京都製作所 大成化工株式会社	株式会社ハートフェルト
病 院	不整脈先端医療寄附講座	平成19年4月1日~ 令和9年3月31日	ボストン・サイエンティフィック・ジャバン株式会社 フクダ電子株式会社 日本ライフライン株式会社 日本メドトロニック株式会社	バイオトロニックジャバン株式会社 アボットメディカルジャバン合同会社 ニプロ株式会社
病 院	心血管治療先端医療寄附講座	平成20年4月1日~ 令和5年3月31日	アイティーアイ株式会社 株式会社フィデスワン ジーエムメディカル株式会社 一般社団法人 菊池郡市医師会 日本ライフライン株式会社 アボットジャパン株式会社 テルモ株式会社	株式会社カネカメディックス ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社 日本メドトロニック株式会社 ゲティンゲグループ・ジャパン株式会社 株式会社フィリップス・ジャパン ニプロ株式会社 カーディナルヘルスジャパン合同会社
病 院	新生児学寄附講座	平成21年1月1日~ 令和5年12月31日	医療法人社団 愛育会 福田病院	
病 院	循環器予防医学先端医療寄 附講座	平成22年4月1日~ 令和5年3月31日	医療法人社団 陣内会 陣内病院	
病 院	脳血管障害先端医療寄附講座	平成26年4月1日~ 令和6年3月31日	医療法人財団 聖十字会	
病 院	地域医療・総合診療実践学 寄附講座	平成28年4月1日~ 令和7年3月31日	熊本県 天草郡市医師会	天草市病院事業 地方独立行政法人くまもと県北病院
病院	消化器癌先端治療開発学寄 附講座	平成29年10月1日~ 令和5年9月30日	株式会社ヤクルト本社 中外製薬株式会社 医療法人社団 鶴友会 鶴田病院	医療法人財団 聖十字会 西日本病院 医療法人社団 東陽会 東病院 医療法人 蘇春堂
病 院	次世代外科治療開発学寄附講座	平成29年12月1日~ 令和5年11月30日	小野薬品工業株式会社	
病 院	地域医療連携ネットワーク 実践学寄附講座	平成31年4月1日~ 令和7年3月31日	熊本県	
病 院	地域連携病理学寄附講座	令和元年10月1日~ 令和6年9月30日	一般財団法人 化学及血清療法研究所	
病 院	産科麻酔学寄附講座	令和2年4月1日~ 令和7年3月31日	医療法人社団 愛育会 福田病院	
病 院	新興感染症対策寄附講座	令和2年11月1日~ 令和7年10月31日	熊本市	
病 院	先進脊椎疾患治療学寄附講座	令和3年4月1日~ 令和6年3月31日	社会医療法人 寿量会 熊本機能病院	
病 院	感染症対応実践学寄附講座	令和4年4月1日~ 令和9年3月31日	熊本県	
国際先端医学研究機構	造血幹細胞工学寄附講座	平成31年4月1日~ 令和6年3月31日	一般財団法人 化学及血清療法研究所	
ヒトレトロウイルス 学共同研究センター	臨床レトロウイルス学寄附講座	令和3年4月1日~ 令和6年3月31日	株式会社CURED	
大学院先導機構	フロンティアデータサイエン ス化血研寄附講座	令和4年4月1日~ 令和9年3月31日	一般財団法人 化学及血清療法研究所	

共同研究講座等

民間機関等からの共同研究経費を有効に活用して、本学の自主性及び主体性の下に設置運営し、本学の教育研究の進展及び充実を はかります。

R4.4.1 現在

部局名	共同研究講座名称	設置期間	共同研究相手先
大学院生命科学研究部	画像動態応用医学共同研究 講座	平成26年4月1日~ 令和6年3月31日	キヤノンメディカルシステムズ株式会社
大学院生命科学研究部	再春館・自然×サイエンス 共同研究講座	平成29年4月1日~ 令和5年3月31日	株式会社再春館製薬所
大学院生命科学研究部	サイエンスファーム 生体機 能化学共同研究講座	平成31年4月1日~ 令和5年3月31日	サイエンスファーム株式会社
大学院生命科学研究部	再春館·先進老化医学共同 研究講座	令和2年4月1日~ 令和7年3月31日	株式会社再春館製薬所
大学院先端科学研究部	あつまる新シルク蚕業開発 共同研究分野	平成29年11月1日~ 令和9年3月31日	株式会社あつまるホールディングス
大学院先端科学研究部	半導体プロセス評価共同研 究分野	平成30年6月1日~ 令和5年3月31日	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
生命資源研究・ 支援センター	生殖工学共同研究分野	令和2年4月1日~ 令和5年3月31日	九動株式会社

包括的連携協定等

本学の知的・人的資源を活用して、連携各機関と相互に協力しながら、地域における教育や文化の質の向上、産業の振興、地域課 題の解決、環境保全に貢献することを目的としています。

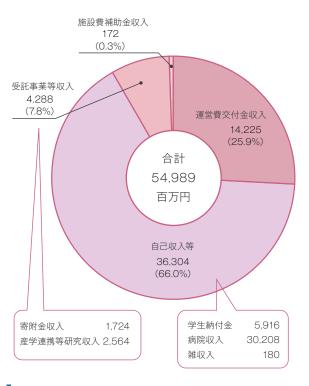
	機関 [協定締結年月日]	目的
	天草市(旧本渡市) [平成17年8月23日]	地域社会の発展と人材の育成に寄与する。
	葦北郡芦北町 [平成18年12月4日]	中山間地域の振興を目指して相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与する。
	熊本市 [平成19年4月26日]	熊本市及び熊本都市圏を始めとする地域社会の発展と人材の育成に寄与する。
	水俣市 [平成19年8月4日]	環境モデル都市の実現のため、環境保全、人材育成、地域づくり等様々な分野において、相互に協力する
	熊本県 一般社団法人アジア法務サポートセンター [平成24年11月30日]	熊本県内企業の海外展開支援を連携して行うことにより、熊本県地域経済の発展及び人材の育成に寄与する
	菊池市 [平成26年8月18日]	大学の知的・人的資源を活かし、まちづくりなどを中心に、地域の課題解決に向けた市と大学との協力体制を築いていく。
自	益城町 [平成29年4月12日]	復興に関する課題を共有し、それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、益城町の震災からの復興に寄与する。
	荒尾市 [平成29年9月22日]	地域社会の発展及び人材の育成に寄与する。
本等	公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター [平成29年12月18日]	時勢に応じた地方創生に関する課題を共有し、それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、阿 地域社会の発展及び人材の育成に寄与する。
	合志市 [平成30年12月12日]	相互の人的・知的資源を活用することにより、地域社会の発展に寄与する。
	熊本県 [平成31年2月20日]	農業に係る学術研究について、その交流を促進することにより、熊本県の農業振興に寄与する。
	南阿蘇村 [令和元年8月30日]	時勢に応じた復興に関する課題を共有し、それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、南阿蘇村の震災からの復興に寄与する。
	多良木町 [令和2年12月21日]	内閣府地方創生人材支援制度による職員派遣を契機に、時勢に応じた課題を共有し、それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会を共創する。
	八代市 [令和3年3月2日]	相互の人的・知的資源を活用することにより、地域社会の発展に寄与する。
	玉名市 [令和3年8月3日]	相互の人的・知的資源を活用することにより、地域社会の発展と市民サービスの向上に寄与する。
	財団法人阿蘇火山博物館久木文化財団 [平成18年4月21日]	火山を始めとする阿蘇地域に関する研究及び地域社会の発展と人材育成に寄与する。
	放送大学 [平成22年11月20日]	教育研究の推進並びに地域及び国際社会に寄与する。
	北陸先端科学技術大学院大学 [平成28年7月27日]	地震により被災した熊本地方の震災復興に向けた課題について、産学官連携活動を通じて、連携及び
	40E2041111XWX11WXX11WXX11WXX1	協力して取り組む。
	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 [平成28年9月20日]	産業技術総合研究所及び熊本大学による研究開発及び研究・教育活動を連携及び協力して実施することにより、平成 28 年熊本地震により被災した熊本地方の早期の復興に寄与する。
J. J.	国立研究開発法人産業技術総合研究所 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 熊本県 [平成29年3月17日]	自然共生型産業 (バイオ・ヘルスケア・材料技術等) 分野、医工連携分野、IoT・AI・ビッグデータ活用分野及びそれらの周辺分野において、国内外の様々な技術シーズを活かして事業化を目指す第本県内の企業を連携して支援し、オープンイノベーションを通じて、新産業の創出を促進すること等により、熊本県内の産業の創造的復興及び我が国の経済発展に寄与する。
飞 幾 月	国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター 熊本県 [平成29年4月10日]	平成 28 年熊本地震からの創造的復興を達成し、復旧・復興を熊本の更なる発展につなげるとともに 「災害に強く誇れる資産を次代につなぎ夢にあふれる新たな熊本の創造」に資すること。
手	国立大学法人鹿児島大学 [平成29年10月26日]	南九州ブラットフォームを設置し独立行政法人教職員支援機構が実施するプログラムを活用するとともに、学校教育関係職員の研修に関連する諸課題に的確に対応するために連携及び協力する。
	国立大学法人鹿児島大学 [平成31年3月18日]	世界的課題である「難治性ウイルス(HIV-1、HTLV-1、HBV及びその他のレトロウイルス)感染症について、両大学が有する資源を有効に活用し、感染病態の基礎研究を基に、感染予防と治癒を目指した世界的・全国的な研究及び教育の総合的推進を図る。
	国立大学法人富山大学 [令和3年3月15日]	先進軽金属材料国際研究機構を設置し、その安定的かつ継続的な運営を図る。
	公立大学法人熊本県立大学 [令和3年7月1日]	相互の教育研究活動全般における交流及び連携を推進し、両大学の教育・研究の一層の充実並びに地域社会の発展及び地域を支える人材の育成に寄与する。
	学校法人東海大学 [令和4年1月11日]	相互の教育研究活動全般における交流及び連携を推進し、両大学の教育・研究の一層の充実並びに国際・地域社会の発展及び人材の育成に寄与する。
	富士電機システムズ株式会社 [平成17年8月25日]	本学の有する研究成果と企業の有する技術力を集結し、産学連携を推進することにより「次世代技術
	DOWAホールディングス株式会社 [平成 19年2月 16日]	を開発し、あわせて学術協力の振興、研究成果による社会貢献及び研究者・技術者の育成に資する。
	株式会社熊本日日新聞社 [平成23年2月23日]	地域社会の発展と人材の育成に寄与する。
	特定非営利活動法人NEXT熊本 [平成23年4月13日]	相互が有する人的、知的資源及び調査研究成果等の交流を行い、地域情報化を推進し、あわせて学校研究の振興、地域情報化に係わる人材の育成に資する。
	不二ライトメタル株式会社 [平成23年9月1日] 熊本県 不二ライトメタル株式会社 株式会社日本医療機器技研 [平成27年9月28日]	KUMADAI マグネシウム合金の製造・開発にかかる連携協力を強化し、産業界における実用化を促進する 各機関が有する人的・知的資源、研究・技術的成果を結集し、マグネシウム合金を使った医療機器の 産業化による地域産業の活性化。
	熊本県 株式会社肥後銀行 一般社団法人熊本県工業連合会 株式会社リバネス [平成28年2月9日]	大学等研究機関から事業シーズの発掘、創業支援を行い、将来的にはグローバルに活躍するメガベンチャーを創出することにより、熊本県内での新産業創出、雇用促進を図る。
	日立造船株式会社 熊本県 [平成28年2月15日]	日立造船と熊本大学において、熊本県の協力のもと、人的・知的資源の交流促進を通じて人材育成 び研究開発を充実させ、地域社会の発展に資する。
	平田機工株式会社 [平成28年8月8日]	平田機工株式会社と熊本大学との間で双方が有する人的・知的資源の交流促進を通じて人材育成及で研究開発を充実させ、連携活動の強化を図り、もって地域社会の発展に資する。
企業	熊本県 熊本県商工会議所連合会 ミュージックセキュリティーズ株式会社 熊本県商工会連合会 熊本県中小企業団体中央会 熊本県中小企業家同友会 [平成28年12月26日]	平成 28 年熊本地震で被災した県内中小企業者について、熊本地震被災地応援ファンドによりその役日・復興を支援し、新たな成長産業及び地域資源活用型産業につなげることによって、熊本県の創設的復興に寄与する。
等	株式会社あつまるホールディングス [平成29年5月9日]	双方が有する人的・知的資源の交流促進を通じて人材育成及び研究開発を充実させ、連携活動の強化を図り、もって地域社会の発展に資する。
	熊本市 熊本県立大学 株式会社NTTドコモ [平成30年10月22日]	相互の人的・知的資源を活用し、熊本市立の全小中学校における教育ICTの推進を図る。
	日本ユニシス株式会社 [平成30年12月12日]	包括的な連携及び協力関係のもと、相互の人的・知的資源を活用することにより、熊本県を中心とする地域社会の発展に寄与することを目的とする。
	九州産業交通ホールディングス株式会社 株式会社マイスティア 熊本県(立会人) [平成31年4月17日]	県内企業の人材確保に向けて、桜町再開発ビルに設置する熊本大学桜町拠点並びに構築する人財還派システムの効率的かつ円滑な運営・協力を図り、もって地方創生の推進に資する。
		産学連携、地域連携及び人材育成等について、双方及び地域の発展に寄与する連携を推進する。
	株式会社肥後銀行 [令和3年6月30日]	度于是15、地域是15次0人们有风号[C 20·C、
		本学が有する研究成果や技術シーズと日本最大の総合金融グループのネットワークやノウハウの「共創
	株式会社肥後銀行 [令和3年6月30日]	本学が有する研究成果や技術シーズと日本最大の総合金融グループのネットワークやノウハウの「共創 により、全国のセクターとの連携、ベンチャー育成、地域活性化や本学の財務基盤の強化などを推進する
	株式会社肥後銀行 [令和3年6月30日] 株式会社三菱UFJ銀行 [令和3年11月10日]	本学が有する研究成果や技術シーズと日本最大の総合金融グループのネットワークやノウハウの「共創により、全国のセクターとの連携、ベンチャー育成、地域活性化や本学の財務基盤の強化などを推進する本学が有する研究成果や技術シーズと、熊本銀行が持つネットワークとノウハウにより、ベンチャー
	株式会社肥後銀行 [令和3年6月30日] 株式会社三菱UFJ銀行 [令和3年11月10日] 株式会社熊本銀行 [令和4年2月1日]	本学が有する研究成果や技術シーズと日本最大の総合金融グループのネットワークやノウハウの「共創により、全国のセクターとの連携、ベンチャー育成、地域活性化や本学の財務基盤の強化などを推進する本学が有する研究成果や技術シーズと、熊本銀行が持つネットワークとノウハウにより、ベンチャー創出やアントレプレナーシップ教育をとおして地域の持続的発展に貢献する。

令和4年度収入・支出予算額

収入予算

単位:百万円

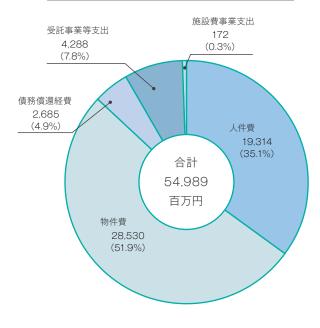
事項	収入額			
運営費交付金収入	14,225			
自己収入等	36,304			
受託事業等収入	4,288			
施設費補助金収入	172			
合 計	54,989			



支出予算

単位:百万円

事項	支出額
人件費	19,314
物件費	28,530
債務償還経費	2,685
受託事業等支出	4,288
施設費事業支出	172
合 計	54,989



主な競争的資金採択状況

区分	事業名	プログラム名称	実施期間
スーパーグローバル大学等事業 (国際化拠点整備事業費補助金)	スーパーグローバル大学創成支援事業 (タイプB:グローバル化牽引型)	地域と世界をつなぐグローバル大学 Kumamoto	平成26~令和5年度
大学改革推進等補助金	課題解決型高度医療人材養成プログラム (医療チームによる災害支援領域)	多職種連携の災害支援を担う高度医療人養成	平成30~令和4年度
研究大学強化促進費補助金	研究大学強化促進事業		平成25~令和4年度
科学技術人材育成費補助金	科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業		令和 2 ~令和9年度
件子权例人材 自成實備功並	次世代研究者挑戦的研究プログラム助成事業	Well-Being 社会を先導する異分野横断型博士人材育成プログラム	令和3~令和9年度
科学技術人材育成費補助金	卓越研究員事業		平成28~令和7年度
研究拠点形成費等補助金	超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティスト 育成事業	九州コンソーシアムによる副専攻型高度データサイエンス教育プログラム	平成30~令和4年度

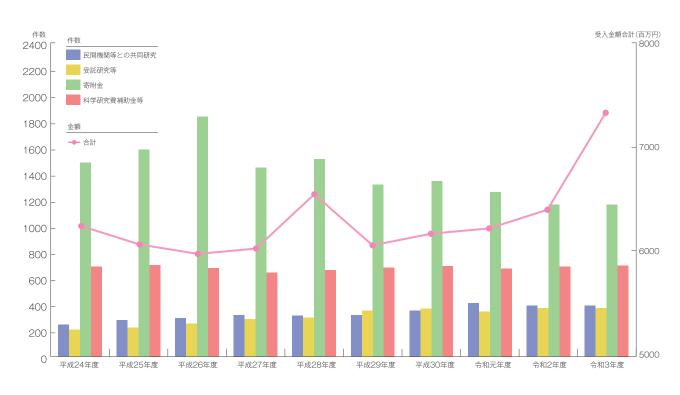
科学研究費助成事業採択状況

令和3年度 執行見込額

種別	件数	金額(千円)
新学術領域研究(研究領域提案型)	13	131,494
学術変革領域研究 (A)	8	84,630
学術変革領域研究 (B)	1	10,920
基盤研究 (S)	2	78,520
基盤研究 (A)	7	65,000
基盤研究 (B)	107	510,560
基盤研究 (C)	325	411,160
挑戦的研究(開拓)	1	2,990
挑戦的研究(萌芽)	39	102,960

件数	金額(千円)
2	1,984
142	214,351
22	31,200
3	4,900
6	18,980
11	44,590
1	18,720
47	45,276
737	1,778,235
	2 142 22 3 6 11 1 47

| 外部資金等受入状況 |



	民間機	関等との共同研究	受託研究等		寄附金		科学研究費補助金等		計
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	金額(千円)
平成 24 年度	243	361,469	206	988,966	1,482	1,828,130	687	3,067,303	6,245,868
平成 25 年度	279	383,877	221	949,472	1,581	1,849,497	700	2,885,846	6,068,692
平成 26 年度	293	416,315	252	1,366,782	1,834	1,685,254	675	2,508,927	5,977,278
平成 27 年度	318	411,237	285	2,265,917	1,446	1,568,707	642	1,783,050	6,028,911
平成 28 年度	313	500,262	299	2,392,851	1,512	1,831,884	660	1,827,391	6,552,388
平成 29 年度	316	551,010	351	1,989,353	1,317	1,727,665	682	1,791,685	6,059,713
平成 30 年度	352	552,847	365	2,267,330	1,340	1,549,274	692	1,802,318	6,171,769
令和 元 年度	407	717,127	345	2,021,542	1,257	1,728,932	673	1,755,676	6,223,277
令和 2 年度	412	645,647	370	2,243,568	1,161	1,744,515	680	1,769,116	6,402,846
令和 3 年度	444	669,608	400	3,032,999	1,139	1,858,319	696	1,776,928	7,337,854

※寄附講座分を含む。 ※熊本大学基金は含まない。 ※特別研究員奨励費は含まない。 ※令和元年度より「民間機関等との共同研究」に学術コンサルティングを含む。

[※]間接経費を含む。千円未満は四捨五入。

病院

令和3年度実績					
			診療	状 況	
診療科	病床数	入	院	外	来
		患者延数	1日平均患者数	患者延数	1日平均患者数
呼吸器内科	42	13,375	36.64	13,034	53.86
消化器内科	46	16,057	43.99	20,648	85.32
血液内科	50	17,956	49.19	10,543	43.57
膠原病内科	30	1,879	5.15	6,962	28.77
腎臓内科	18	6,344	17.38	7,485	30.93
糖尿病・代謝・内分泌内科	16	5,335	14.62	17,891	73.93
循環器内科	43	15,705	43.03	16,979	70.16
脳神経内科	30	10,639	29.15	10,625	43.90
心臓血管外科	15	5,771	15.81	1,133	4.68
呼吸器外科	15	5,003	13.71	3,480	14.38
消化器外科	75	29,283	80.23	13,677	56.52
乳腺・内分泌外科	12	3,971	10.88	9,806	40.52
小児外科	4.0	688	1.88	1,323	5.47
移植外科	13	3,206	8.78	1,897	7.84
泌尿器科	25	8,669	23.75	7,027	29.04
婦人科	30	10,788	29.56	11,540	47.69
小児科	54	16,466	45.11	15,804	65.31
産科	27	7,526	20.62	4,911	20.29
整形外科	41	16,359	44.82	14,690	60.70
皮膚科	40	11,768	32.24	14,223	58.77
形成・再建科	40	1,068	2.93	1,745	7.21
眼科	26	8,394	23.00	17,289	71.44
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	36	14,187	38.87	16,629	68.71
歯科口腔外科	24	8,199	22.46	22,154	91.55
画像診断・治療科	6	1,987	5.44	3,174	13.12
放射線治療科	0	0	0.00	16,976	70.15
神経精神科	50	10,663	29.21	11,206	46.31
脳神経外科	35	12,267	33.61	6,972	28.81
麻酔科	0	7	0.02	3,408	14.08
救急部	4	405	1.11	2,097	8.67
総合診療科	0	0	0.00	894	3.69

附属図書館

	119	71-5	_	
献	書類			

蔵書類 R4.3.31 現在								
				単位	中央館	医学系分館	薬学部分館	計
	和	書(薩	(書数	m	691,595	66,279	16,253	774,127
図書	洋	書(薩	(書数	₩	350,705	106,526	19,588	476,819
		合	計		1,042,300	172,805	35,841	1,250,946
		和	書	種類	11,085	2,606	596	14,287
雑誌		洋	書	俚炽	4,049	2,715	430	7,194
Har.		合	計		15,134	5,321	1,026	21,481
リポ	ジト	リ登	録件数	件	_	_	_	16,094

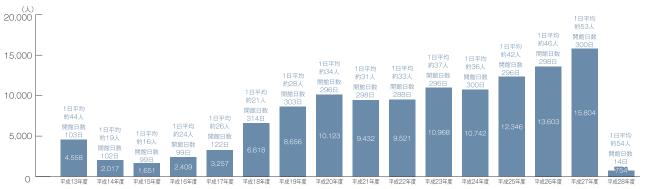
利用状況

令和	3	年	Ŀ

	単位	中央館	医学系分館	薬学部分館	計
入 館 者 数	人	87,762	45,152	28,708	161,622
貸 出 冊 数	M)	49,286	3,546	241	53,073
文献複写数 受付	一件	702	1,123	54	1,879
(相互利用) 依頼	1+	743	534	39	1,316
リポジトリ ダウンロード件	数件	_	_	_	618,647
座 席 数	席	707	240	91	1,038

五高記念館

入館者数 ※平成28年熊本地震後、長期休館のため入館数データなし。令和4年4月より開館。



※平成18年2月までは、土・日のみの開館。

福利厚生施設

保健センター

保健センターは、昭和48年に本学に設置されて以来、学生・教職員の身体及び精神上の健康の保持増進を図るため、定期・臨時の健康診断、健康相談、 応急措置等を行っています。

職員数	構造等	主な施設	業務内容	備考
センター長(併) 専任教員(所長を含む) 3名 看護師 3名 学校医(併) 2名 キャンパスソーシャルワーカー 1名 1名 公認心理師 1名	鉄筋2階建 占有面積 613㎡	診察室 検査室 休養室 相談室	定期及び臨時の健康診断、RI 等取扱者の健康診断、健康相談、乙ころの健康相談、学生生活・教育相談、学業・進路相談、留学生相談、一般処置、スポーツクリニック、体育系サークル検診、保健センターだよりの発行及び保健情報の提供	昭和48年4月12日設置

学生寄宿舎

学生寄宿舎は、熊本大学黒髪キャンパスから東に約1.5Km離れた県道337号線沿いに位置し、本学学部学生、学部留学生及び大学院留学生に対して 勉学に資する生活の場を提供する目的で設置された施設です。 R4.5.1現在

定員数	対象者	構造・建物延面積	居室等	備考
男子 200名 (A棟 100名 B棟 100名) 女子 80名	学部学生、 学部留学生 及び	鉄筋 5 階建 (ただし、共通棟は鉄筋平屋建)	各室個室(10㎡) 男女浴室各1(共通棟)	昭和55年4月1日設置 〈所在地〉
合計 280 名	大学院留学生	延面積 5,024㎡	各階に談話室、補食室、洗面・洗濯室、トイレ	熊本市中央区黒髪7丁目763番地

国際交流会館

熊本大学国際交流会館は、海外からの留学生・研究者用の宿泊施設として昭和60年にA棟が建てられました。その後留学生・研究者の増加に伴い 平成7年にはB棟、平成21年11月にはC棟、D棟、E棟が新たに建てられ、令和4年5月現在で全232室に24カ国・地域からの留学生・外国人研究 者が居住しています。また、平成28年4月から日本人学生も受け入れる混住型宿舎になりました。 R4.5.1現在

	居室			構造	 共用施設			
	家族室	夫婦室	単身室	シェアタイプ	計	情 坦	大角爬	Z.
A 棟	3	3	49		55	鉄筋コンクリート造(5 階建)	談話室	1
B棟	4	3	50		57	鉄筋コンクリート造(5 階建)	研修室	i
C棟				36	36	鉄骨造(3 階建)	和室 共用ロビー	1
D棟				36	36	鉄骨造(3 階建)	3 共用ロビー 多目的室	1
E棟			48		48	鉄骨造(3 階建)	ラウンジ	1
計	7	6	147	72	232		洗濯室	10

学生会館

学生会館は、学生相互の親睦を深め、福利厚生の充実を図ることを目的として昭和41年に設立されたもので、会館には、集会室、体育団体・文化 団体連絡室、食品・書籍・文具・プレイガイド及び食堂等があります。

北地区学生会館 A 棟						
	課外活動施設関係			福利厚生施設関係		
種別	部屋数	面積	種別	面積		
大集会室	1	501 m²	食堂	622m²		
集会室	4	275m²	厨房	263m²		
和室	2	46m²	購買関係	500m²		
その他		652m²	機械室	46m²		
			その他	570m²		
合	計	1,474m²	合計	2,001 m²		

北地区学生会館B棟					
課外活動施設関係			福利厚生施設関係		
種別	部屋数	面積	種別	面積	
体育会本部室	1	74m²	理髪所	33m²	
文化部会室	1	52m²			
紫熊祭本部室	1	57m²			
ミーティング室	2	118m²			
その他		289m²			
合	計	590m²	合計	33m ²	

総面積

体育施設

R4.5.1現在

その他の		R4.5.1現在	
地区	施設名	面積	席数

地区	施設名	面積等
	陸上競技場	1 面(トラック300m、7コース)
	ラグビー場	1 面 運動場 (武夫原)
	サッカー場	1面 27,168㎡
黒髪	テニスコート	4面(教育学部東教場)
	プール	50m 8コース
	体育館	2棟 4,737㎡
	体育器具庫	1 棟 432㎡
	野球場	1 面(両翼 88m、中堅 110m)
	テニスコート	8面
渡鹿	アーチェリー場	1基(10人立)
(大江総合運動場)	弓道場	1棟(8人立)、191㎡
※主として	体育館	1 棟 990㎡
課外活動用	自動車練習場	1面 2,378㎡
	合宿研修棟	1 棟 1,068㎡
	体育器具庫	1 棟 1,068㎡
+# (±)	テニスコート	1面
本荘(南)	体育館(武道場を含む)	1 棟 1,446㎡
	運動場	1面] 11 000㎡
大江 (薬学部)	テニスコート	1 面 } 11,620㎡
(3K-T-UV)	体育館	1 棟 1,072㎡
三角	ヨット用艇庫	1 棟 122㎡
(宇城市三角町)	合宿所	1 棟 60㎡

1 棟 225㎡(土地は熊本市から借用)

地区	施設名	面積	席数
黒髪 (南)	FORICO 食堂	950m²	412
- 未友 (用)	FORICO 売店	165m²	_
本荘 (南)	楷樹会館食堂	207m²	153
本社(判)	楷樹会館購買	107m²	_
大江	蕃滋館食堂	185㎡	160
	蕃滋館購買	56m²	_
	くすの木会館レセプションルーム	157m²	90
黒髪(北)	くすの木会館和室	95m²	_
	くすの木会館食堂	138m²	137

宿泊施設

R4.5.1現在

地区	施設名	面積	部屋数
黒髪(北)	くすの木会館宿泊室	1 部屋 25㎡	5

広木

漕艇用艇庫

|土地・建物面積|

土地·建物面積

区分	土地(㎡)	建物延面積(㎡)
黒髪北地区	169,619	70,153
文学部·法学部		12,565
教育学部		15,998
附属図書館		8,884
学内共同教育研究施設等		16,614
その他		16,092
教育学部東教場	26,375	5,949
教育学部		1,758
特別支援		4,164
その他		27
黒髪南地区	115,176	95,895
理学部		14,103
工学部		42,582
自然科学教育部		16,969
国際先端科学技術研究拠点施設 (IRCAST)		3,026
学内共同教育研究施設等		10,648
本部		4,186
その他		4,381
本荘北・中地区	110,054	169,986
医学部		41,463
大学病院		100,941
動物資源開発研究施設		8,225
遺伝子実験施設 アイソトープ総合施設		4,163
ヒトレトロウイルス学共同研究センター		2,322
発生医学研究所		6,478
国際先端医学研究拠点施設(IRCMS)		3,041
その他		3,353

34.5.	1 珀左	

区分	土地(㎡)	建物延面積(㎡)
本荘南地区	25,761	14,082
医学部		13,784
こばと保育園		298
大江地区	53,352	20,497
薬学部		16,538
その他		3,959
京町地区	51,547	13,421
附属小学校		7,305
附属中学校		6,116
城東町地区	4,632	1,199
附属幼稚園		1,199
大江総合運動場	39,752	3,803
大江総合運動場		3,734
教育学部		69
合津マリンステーション	5,697	1,670
合津マリンステーション		1,670
地域共同ラボラトリー	19,945	2,085
地域共同ラボラトリー		2,085
その他	58,552	26,374
合計	680,462	425,114



黒髪北地区、黒髪南地区、教育学部東教場



置 位 义







(医学部・病院等)

◎JR熊本駅から

都市バス:第一環状線等(大学病院・大江渡鹿経由)「大学病院前」下車

◎桜町バスターミナルから(2番のりば、P)

都市バス:ハ王寺環状線、野越団地行き「大学病院前」下車 熊本バス:御幸木部行き「大学病院前」下車

3 大江地区

(薬学部等)

◎JR熊本駅から

市電:健軍町行き(A系統)「味噌天神前」下車、徒歩5分

◎桜町バスターミナルから (24番 25番のりば、L・K)

産交バス:木山、沼山津行き等(健軍・県庁経由)「味噌天神」下車、徒歩5分 熊本バス:御船、甲佐、城南行き等(健軍・県庁経由)「味噌天神」下車、徒歩5分

◎JR新水前寺駅から 徒歩10分

京町地区 (附属小学校・附属中学校)

城東町地区 (附属幼稚園)

学生寄宿舎、国際交流会館

大江総合運動場

合津マリンステーション

○JR熊本駅・桜町バスターミナル(5番のりば)から 産交バス:天草(本渡)行き「前島」下車

地域共同ラボラトリー 9

○桜町バスターミナル (6番のりば)から 産交バス: 阿蘇くまもと空港行き(空港りムジン) 「阿蘇くまもと空港」下車、車で5分

主要施設等配置図

【黒髪北·南地区 教育学部東教場】

■黒髪北地区

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 TEL.096(344)2111

- 1 五高記念館【重要文化財】
- 2 化学実験場【重要文化財】
- 3 表門(赤門)【重要文化財】
- 4 黒髪北N1(文法学部本館)
- 5 黒髪北N2(文法学部南棟)
- 6 黒髪北N3(社会文化科学教育部棟1)
- 7 黒髪北N4(文法学部B講義棟)
- 8 黒髪北N5(社会文化科学教育部棟2)
- 9 黒髪北N6(文法学部北棟)
- 10 黒髪北N7(教育学部音楽棟)
- 11 黒髪北N8(教育学部実習工場)
- 12 黒髪北N9(教育学部西棟)
- 13 黒髪北N10(教育学部本館)
- 15 文書館(資料室)
- 16 愛work A棟
- 17 愛work B棟
- 18 知命堂
- 19 くすの木会館
- 20 設備·管理棟

- 21 黒髪北C1(共用棟黒髪5)
- 22 附属図書館中央館
- 23 附属図書館南棟·放送大学熊本学習センター
- 24 保健センター
- 25 北地区学生会館A棟
- 26 北地区学生会館B棟
- 27 北地区門衛所
- 28 黒髪北E1(全学教育棟)
- 29 黒髪北E2(共用棟黒髪6及び書庫)
- 30 黒髪北E3·E4(共用棟黒髪6)
- 31 環境安全センター
- 32 多言語文化総合教育棟
- 33 黒髪北サークル棟1
- 34 黒髪体育館
- 35 黒髪北サークル棟2
- 36 黒髪北サークル棟3
- 37 グラウンド(武夫原)

■黒髪南地区

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 TEL.096(344)2111

- 47 丁学部研究資料館【重要文化財】
- 48 里髻南W1(丁学部研究棒III)
- 49 黒髪南W2((黒髪)総合研究棟)
- 50 黒髪南W3(共用棟黒髪1)
- 51 黒髪南W4(工学部研究棟 II)
- 52 黒髪南W5(工学部研究棟IV)
- 53 黒髪南W6(工作機器センター)
- 黒髪南W8(ものづくり実習室)
- 55 黒髪南W9(ものづくり実習室2)
- 工学部百周年記念館
- 57 黒髪南C1(共用棟黒髪7)
- 58 黒髪南C2(工学部1号館)
- 59 黒髪南C3(工学部研究棟I)
- 60 黒髪南C4(共用棟黒髪2)
- 61 黒髪南C5(ナノ構造解析室)
- 62 黒髪南C6(音響実験室) 63 黒髪南C7(共用棟黒髪3)
- 64 黒髪南C8(工学部2号館)
- 65 黒髪南C9(総合情報統括センター)
- 66 文書館

- 67 本部【登録有形文化財】
- 68 南地区門衛所
- 69 黒髪南E1(理学部1·2号館)
- 70 黒髪南E2

(自然科学研究科·理学部総合研究実験棟)

- 72 黒髪南E4(理学部4号館)
- 73 黒髪南E5(自然科学研究科研究棟)
- 74 黒髪南E6(自然科学研究科実験棟)
- 75 黒髪南E7(生物生息環境音響解析室)
- 76 黒髪南E8

(極低温実験室・Heガス回収中継室)

- 77 南地区学生会館
- 78 FORICO(福利施設)
- 79 黒髪南S1(水理実験棟)
- 80 黒髪南S2(工学研究機器センター)
- 81 黒髪南S3(防災実験棟)
- 82 黒髪南S4(黒髪地区RI施設)
- 83 黒髪南S5(埋蔵文化財調査センター)
- 84 黒髪南S6

(ベンチャーラボ・衝撃極限環境研究実験棟)

- 85 黒髪南S7(インキュベーションラポラトリー)
- 86 黒髪南S8(衝撃実験棟)
- 87 黒髪南S9(研究実験棟)
- 88 黒髪南S10

(先進マグネシウム国際研究センター溶解鋳造実験棟)

89 黒髪南S11

(先進マグネシウム国際研究センター成形加工実験棟)

90 黒髪南S12

(国際先端科学技術研究拠点施設(IRCAST))

■教育学部東教場

〒860-0862

熊本市中央区黒髪5丁目17番1号 TEL.096 (342) 2956

- 39 黒髪北E8(教育学部東教室)
- 40 黒髪北E9(附属特別支援学校A棟)
- 41 黒髪北E1O(附属特別支援学校B棟)
- 42 黒髪北E11(附属特別支援学校C棟) 43 黒髪北E12(附属特別支援学校体育館)
- 44 黒髪北E13(すずかけの家)
- **45** プール 46 グラウンド





11 14 20 13 公 共 道 路

【本荘北·中·南地区】

■本荘北地区

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号 TEL.096(344)2111

- 1 西病棟
- 2 東病棟
- 3 中央診療棟
- 4 外来診療棟
- 5 管理棟
- 6 山崎記念館【登録有形文化財】
- 7 福利厚生棟
- 8 設備管理棟
- 9 本荘北1(臨床医学研究棟)
- 10 本荘北2(医学教育図書棟)
- 11 本荘北3(医学総合研究棟)
- 12 本荘北4(基礎医学研究棟)
- 13 本荘北5(臨床医学教育研究センター)
- 14 看護師宿舎
- 15 第一立体駐車場
- 16 第二立体駐車場
- 17 マルチ・トリアージ棟

■本荘中地区

〒860-0811 熊本市中央区本荘2丁目2番1号 TEL.096(344)2111

- 18 本荘中1
 - (生命資源研究・支援センター動物資源開発研究施設本館)
- 19 本荘中2(ヒトレトロウイルス学共同研究センター 生命資源研究・支援センター動物資源開発研究施設新館)
- 20 本荘中3(国際先端医学研究拠点施設(IRCMS))
- 21 本荘中4(旧医学部講義棟)
- 22 本荘中5(発生医学研究所)
- 23 本荘中6

(生命資源研究・支援センターRI総合施設、遺伝子実験施設)

- 24 本荘中7(共用棟本荘1)
- 25 本荘中サークル棟1
- 26 本荘中サークル棟2
- 27 本荘中サークル棟3 28 肥後医育記念館
- 29 昔寿メモリアル収蔵庫

■本荘南地区 〒862-0976 熊本市中央区九品寺4丁目24番1号 TEL.096(344)2111

- 30 楷樹会館(福利施設)
- 31 本荘体育館
- 32 本荘南1(医学部保健学科A·B·C棟)
- 33 本荘南2(共用棟本荘2)
- 34 本荘南3(医学部保健学科E棟)
- 35 本荘南サークル棟1
- 36 こばと保育園

【大江地区】

■大江地区

〒862-0973 熊本市中央区大江本町5番1号 TEL 096 (344) 2111

- 1 大江C1(薬学部本館)
- 2 大江C2(実験研究棟)
- 3 大江C3(大学院実験研究棟)
- 4 大江C4(薬学部講義棟)
- 5 大江C5(模擬薬局) 6 大江W1(薬学部動物舎)
- 7 大江W2(共同実験棟)
- 8 大江W3(大江地区RI施設)
- 9 大江E1((大江)総合研究棟)
- 10 大江E2(機器分析施設) 11 大江E3(薬用植物園管理舎)
- 12 作業場 器材舎
- 13 蕃滋館(福利施設)
- 14 大江体育館
- 15 宮本記念館 16 薬学部資料館
- 17 大江E4(産業イノベーションラボラトリー)
- 18 白山町宿舎3棟
- 19 運動場
- 20 薬用植物園

00000000000 【京町地区】 ■附属小学校·附属中学校 (附属教育実践総合センター) 〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5番12号 (小学校)TEL.096(356)2492 (中学校)TEL.096(355)0375 (教育実践総合センター)TEL.096(325)3282 1 附属小学校管理棟 11 8 2 附属小学校校舎A棟 THE SOL IIIIIIIIIIIIII) 3 附属小学校校舎B棟 9 8 4 4 4 附属小学校多目的ホール 111111 5 附属小学校体育館 6 附属小学校グラウンド 7 附属小学校プール 九州森林管理局 8 附属中学校校舎 9 附属中学校西校舎 ... 10 コンピュータ棟 11 附属中学校体育館 12 附属中学校グラウンド 13 附属中学校プール 14 附属教育実践総合センター 15 附中屋外トイレ 5 【大江総合運動場】 1 mumnm ■大江総合運動場 2 2 〒862-0970 熊本市中央区渡鹿4丁目1番1号 TEL.096(372)4241 5 1 合宿研修棟 2 部室棟 3 管理棟 4 弓道場 5 運動場 6 6 渡鹿体育館 ******* 【城東町地区】 __ 7 アーチェリー場 A M W W 8 自動車練習場 7 ■附属幼稚園 〒860-0846 熊本市中央区城東町5番9号 TEL.096(352)3483 1 管理棟遊戲室 2 保育室 A棟 3 保育室 B棟 4 運動場 5 プール 0 天草五橋 (4号橋) 至空港→ 天草五橋 (5号橋) 【合津マリンステーション】 【地域共同ラボラトリー】 ■合津マリンステーション ■地域共同ラボラトリー

〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津6061番

TEL.0969 (56) 0277

1 研究飼育棟

2 研究実習棟

3 研究宿泊棟

〒861-2202 熊本県上益城郡益城町田原2081の7

TEL.096 (286) 1212

1 地域共同ラボラトリー

2 遠心力試験室

国立大学法人熊本大学

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 TEL.096-344-2111(代表) https://www.kumamoto-u.ac.jp/

令和4年7月発行

